

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第5732840号  
(P5732840)

(45) 発行日 平成27年6月10日(2015.6.10)

(24) 登録日 平成27年4月24日(2015.4.24)

(51) Int.Cl.

F I

A 4 5 D 29/18 (2006.01)

A 4 5 D 29/18

B 4 1 J 25/20 (2006.01)

B 4 1 J 25/20

B 4 1 J 21/00 (2006.01)

B 4 1 J 21/00

Z

請求項の数 8 (全 30 頁)

(21) 出願番号 特願2010-277615 (P2010-277615)  
 (22) 出願日 平成22年12月14日(2010.12.14)  
 (65) 公開番号 特開2012-125311 (P2012-125311A)  
 (43) 公開日 平成24年7月5日(2012.7.5)  
 審査請求日 平成25年9月25日(2013.9.25)

(73) 特許権者 000001443  
 カシオ計算機株式会社  
 東京都渋谷区本町1丁目6番2号  
 (74) 代理人 110001254  
 特許業務法人光陽国際特許事務所  
 (72) 発明者 村田 嘉行  
 東京都羽村市栄町3丁目2番1号 カシオ  
 計算機株式会社 羽村技術センター内

審査官 青木 良憲

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 ネイルプリント装置および印刷制御方法

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

指の爪部に対応する爪領域画像を取得する爪領域画像取得手段と、  
 平面視における前記爪部の幅方向の見かけ寸法を測定する見かけ寸法測定手段と、  
 前記見かけ寸法測定手段によって測定された前記爪部の幅方向の見かけ寸法に対応する  
 爪実寸幅を取得する爪実寸幅取得手段と、  
 前記爪実寸幅取得手段により取得された前記爪部の爪実寸幅に対応する爪幅付加画像を  
 生成する爪幅付加画像生成手段と、  
 前記爪幅付加画像生成手段により生成された前記爪幅付加画像を前記爪領域画像取得手  
 段により取得された前記爪領域画像の左右側部に合成して、合成爪領域画像を生成する合  
 成爪領域画像生成手段と、  
 前記合成爪領域画像生成手段により合成された前記合成爪領域画像の輪郭をネイルチッ  
 プシート上に印刷させる印刷制御手段と、  
 を備えていることを特徴とするネイルプリント装置。

【請求項2】

前記爪領域画像取得手段は、複数の指についてそれぞれ爪部に対応する爪領域画像を取  
 得するものであり、  
 前記見かけ寸法測定手段は、前記各指ごとに平面視における前記爪部の幅方向の見かけ  
 寸法を測定し、  
 前記爪実寸幅取得手段は、前記見かけ寸法測定手段によって測定された前記各指ごとの

10

20

前記爪部の見かけ寸法に対応する爪実寸幅を取得し、

前記爪幅付加画像生成手段は、前記爪実寸幅取得手段により取得された前記各指ごとの前記爪部の爪実寸幅に対応する爪幅付加画像を生成し、

前記合成爪領域画像生成手段は、前記各指ごとの爪幅付加画像をそれぞれ前記爪領域画像取得手段により取得された前記各指ごとの前記爪領域画像の左右側部に合成して、前記各指ごとの合成爪領域画像を生成し、

前記印刷制御手段は、前記合成爪領域画像生成手段により合成された前記各指ごとの合成爪領域画像の輪郭をネイルチップシート上に印刷させることを特徴とする請求項 1 に記載のネイルプリント装置。

【請求項 3】

指の爪部に対応する爪領域画像を取得する爪領域画像取得手段と、

平面視における前記爪部の幅方向の見かけ寸法を測定する見かけ寸法測定手段と、

前記見かけ寸法測定手段により取得された前記爪部の幅方向の見かけ寸法に対応する爪幅付加画像を生成する爪幅付加画像生成手段と、

前記爪幅付加画像生成手段により生成された前記爪幅付加画像を前記爪領域画像取得手段により取得された前記爪領域画像の左右側部に合成して、合成爪領域画像を生成する合成爪領域画像生成手段と、

前記合成爪領域画像生成手段により合成された前記合成爪領域画像の輪郭をネイルチップシート上に印刷させる印刷制御手段と、

を備えていることを特徴とするネイルプリント装置。

【請求項 4】

前記見かけ寸法測定手段は、前記爪領域画像取得手段により取得された前記爪領域画像に基づいて前記爪部の幅方向の見かけ寸法を測定するものであることを特徴とする請求項 1 から請求項 3 のいずれか一項に記載のネイルプリント装置。

【請求項 5】

前記爪幅付加画像生成手段は、前記爪部の爪実寸幅に前記爪部の長さ方向の寸法をも加味して前記爪幅付加画像を生成することを特徴とする請求項 1 から請求項 4 のいずれか一項に記載のネイルプリント装置。

【請求項 6】

前記爪部の表面領域画像を取得する表面領域画像取得手段と、

この表面領域画像取得手段により取得された前記爪部の表面領域画像の輪郭をネイルチップシート上に印刷させる印刷制御手段と、

を備えていることを特徴とする請求項 1 から請求項 5 のいずれか一項に記載のネイルプリント装置。

【請求項 7】

印刷しようとするデザイン画像を指定するデザイン指定手段をさらに備え、

前記印刷制御手段は、前記デザイン指定手段により指定されたデザイン画像と前記合成爪領域画像生成手段によって生成された前記合成爪領域画像の輪郭とをネイルチップシート上に印刷させるものであることを特徴とする請求項 1 から請求項 6 のいずれか一項に記載のネイルプリント装置。

【請求項 8】

指の爪部に対応する爪領域画像を取得する爪領域画像取得ステップと、

平面視における前記爪部の幅方向の見かけ寸法を測定する見かけ寸法測定ステップと、

前記見かけ寸法測定ステップにおいて測定された前記爪部の幅方向の見かけ寸法に対応する爪実寸幅を取得する爪実寸幅取得ステップと、

前記爪実寸幅取得ステップにおいて取得された前記爪部の爪実寸幅に対応する爪幅付加画像を生成する爪幅付加画像生成ステップと、

前記爪幅付加画像生成ステップにおいて生成された前記爪幅付加画像を前記爪領域画像取得ステップにおいて取得された前記爪領域画像の左右側部に合成して、合成爪領域画像を生成する合成爪領域画像生成ステップと、

10

20

30

40

50

前記合成爪領域画像生成ステップにおいて合成された前記合成爪領域画像の輪郭をネイルチップシート上に印刷させる印刷制御ステップと、

を含んでいることを特徴とする印刷制御方法。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、ネイルプリント装置および印刷制御方法に関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来、人の指の爪に文字や絵柄等のデザイン画像を印刷するネイルプリント装置が知られている（例えば、特許文献1参照）。

10

ネイルプリント装置は、印刷しようとする爪を撮影手段で撮影して印刷対象となる爪領域を検出し、この検出された爪領域にユーザが選択したデザイン画像をインクジェット方式の印刷ヘッド等を用いて印刷するものである。

このような装置を用いれば、ネイルサロン等を利用することなく、簡易にネイルプリントを楽しむことができる。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献1】特表2003-534083号公報

20

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

しかしながら、従来のネイルプリント装置のように、インクを人の爪の上面に直接に噴射して印刷する場合には、ユーザは印刷動作の間、指を動かさないように固定したまま待っていなければならない、負担が大きい。

また、インクジェット方式の印刷ヘッドを用いて印刷を行う場合、インクミストが爪の周辺に飛散することがあり、印刷の際に指にインクが付着して汚れてしまうおそれもある。

さらに、爪に直接印刷した場合には、印刷されたデザイン画像を他のものに変えたいと思った場合、除光液等を用いて印刷されている画像を消さなければならない、手間がかかる。このため、服装や気分に合わせて手軽にネイルプリントを変えておしゃれを楽しむことができないという問題もある。

30

【0005】

そこで、ユーザがネイルプリントをもっと簡易に楽しむことができるようにするため、爪部上に直接印刷を行うのではなく、ネイルプリント装置において爪部の輪郭をネイルチップシートに印刷し、爪部上に貼付するネイルチップを作成することが考えられる。

【0006】

しかし、爪部の形状は平板ではなく、幅方向の中央部分が盛り上がった湾曲形状をしている。このため、単に爪部を上方から見た見かけ上の幅寸法に基づいて爪部の輪郭線を印刷しネイルチップを作成した場合には、ネイルチップを爪部に貼り付けたときに、貼り付けたネイルチップの左右端部が爪部の左右端部にまで届かず、当該爪部の左右端部に隙間がそれぞれできてしまい、爪部の全域に亘ってきれいにネイルチップを貼り付けることができないという問題がある。

40

【0007】

本発明は以上のような事情に鑑みてなされたものであり、湾曲形状をした爪部の全域に隙間なく貼り付けることのできるネイルチップを自動的に作成し、簡易にネイルプリントを楽しむことのできるネイルプリント装置および印刷制御方法を提供することを目的とするものである。

【課題を解決するための手段】

50

## 【 0 0 0 8 】

前記課題を解決するために、請求項 1 に記載のネイルプリント装置は、  
指の爪部に対応する爪領域画像を取得する爪領域画像取得手段と、  
平面視における前記爪部の幅方向の見かけ寸法を測定する見かけ寸法測定手段と、  
前記見かけ寸法測定手段によって測定された前記爪部の幅方向の見かけ寸法に対応する  
爪実寸幅を取得する爪実寸幅取得手段と、  
前記爪実寸幅取得手段により取得された前記爪部の爪実寸幅に対応する爪幅付加画像を  
生成する爪幅付加画像生成手段と、  
前記爪幅付加画像生成手段により生成された前記爪幅付加画像を前記爪領域画像取得手  
段により取得された前記爪領域画像の左右側部に合成して、合成爪領域画像を生成する合  
成爪領域画像生成手段と、  
前記合成爪領域画像生成手段により合成された前記合成爪領域画像の輪郭をネイルチッ  
プシート上に印刷させる印刷制御手段と、  
を備えていることを特徴としている。

10

## 【 0 0 0 9 】

請求項 2 に記載の発明は、請求項 1 に記載のネイルプリント装置において、  
前記爪領域画像取得手段は、複数の指についてそれぞれ爪部に対応する爪領域画像を取  
得するものであり、  
前記見かけ寸法測定手段は、前記各指ごとに平面視における前記爪部の幅方向の見かけ  
寸法を測定し、  
前記爪実寸幅取得手段は、前記見かけ寸法測定手段によって測定された前記各指ごとの  
前記爪部の見かけ寸法に対応する爪実寸幅を取得し、  
前記爪幅付加画像生成手段は、前記爪実寸幅取得手段により取得された前記各指ごとの  
前記爪部の爪実寸幅に対応する爪幅付加画像を生成し、  
前記合成爪領域画像生成手段は、前記各指ごとの爪幅付加画像をそれぞれ前記爪領域画  
像取得手段により取得された前記各指ごとの前記爪領域画像の左右側部に合成して、前記  
各指ごとの合成爪領域画像を生成し、  
前記印刷制御手段は、前記合成爪領域画像生成手段により合成された前記各指ごとの合  
成爪領域画像の輪郭をネイルチップシート上に印刷させることを特徴としている。

20

## 【 0 0 1 0 】

また、請求項 3 に記載のネイルプリント装置は、  
指の爪部に対応する爪領域画像を取得する爪領域画像取得手段と、  
平面視における前記爪部の幅方向の見かけ寸法を測定する見かけ寸法測定手段と、  
前記見かけ寸法測定手段により取得された前記爪部の幅方向の見かけ寸法に対応する爪  
幅付加画像を生成する爪幅付加画像生成手段と、  
前記爪幅付加画像生成手段により生成された前記爪幅付加画像を前記爪領域画像取得手  
段により取得された前記爪領域画像の左右側部に合成して、合成爪領域画像を生成する合  
成爪領域画像生成手段と、  
前記合成爪領域画像生成手段により合成された前記合成爪領域画像の輪郭をネイルチッ  
プシート上に印刷させる印刷制御手段と、  
を備えていることを特徴としている。

30

40

## 【 0 0 1 1 】

請求項 4 に記載の発明は、請求項 1 から請求項 3 のいずれか一項に記載のネイルプリン  
ト装置において、  
前記見かけ寸法測定手段は、前記爪領域画像取得手段により取得された前記爪領域画像  
に基づいて前記爪部の幅方向の見かけ寸法を測定するものであることを特徴としている。

## 【 0 0 1 2 】

請求項 5 に記載の発明は、請求項 1 から請求項 4 のいずれか一項に記載のネイルプリン  
ト装置において、  
前記爪幅付加画像生成手段は、前記爪部の爪実寸幅に前記爪部の長さ方向の寸法をも加

50

味して前記爪幅付加画像を生成することを特徴としている。

【0013】

また、請求項6に記載のネイルプリント装置は、請求項1から請求項5のいずれか一項に記載のネイルプリント装置において、

前記爪部の表面領域画像を取得する表面領域画像取得手段と、

この表面領域画像取得手段により取得された前記爪部の表面領域画像の輪郭をネイルチップシート上に印刷させる印刷制御手段と、

を備えていることを特徴としている。

【0014】

請求項7に記載の発明は、請求項1から請求項6のいずれか一項に記載のネイルプリント装置において、

印刷しようとするデザイン画像を指定するデザイン指定手段をさらに備え、

前記印刷制御手段は、前記デザイン指定手段により指定されたデザイン画像と前記合成爪領域画像生成手段によって生成された前記合成爪領域画像の輪郭とをネイルチップシート上に印刷させるものであることを特徴としている。

【0015】

また、請求項8に記載の印刷制御方法は、

指の爪部に対応する爪領域画像を取得する爪領域画像取得ステップと、

平面視における前記爪部の幅方向の見かけ寸法を測定する見かけ寸法測定ステップと、

前記見かけ寸法測定ステップにおいて測定された前記爪部の幅方向の見かけ寸法に対応する爪実寸幅を取得する爪実寸幅取得ステップと、

前記爪実寸幅取得ステップにおいて取得された前記爪部の爪実寸幅に対応する爪幅付加画像を生成する爪幅付加画像生成ステップと、

前記爪幅付加画像生成ステップにおいて生成された前記爪幅付加画像を前記爪領域画像取得ステップにおいて取得された前記爪領域画像の左右側部に合成して、合成爪領域画像を生成する合成爪領域画像生成ステップと、

前記合成爪領域画像生成ステップにおいて合成された前記合成爪領域画像の輪郭をネイルチップシート上に印刷させる印刷制御ステップと、

を含んでいることを特徴としている。

【発明の効果】

【0016】

本発明によれば、指の爪領域画像に爪部の幅方向の見かけ寸法に対応する爪実寸幅の爪幅付加画像を加味した合成爪領域画像の輪郭（指定されたデザインを含むことを可能）を、ネイルシートに印刷する。これにより、ユーザは印刷された合成爪領域画像の輪郭に沿ってネイルチップシートを切断することで、自己の爪部の爪実寸幅に合った形状のネイルチップとして自己の爪部の上に貼り付けることが可能となるため、爪部の左右両端に隙間を空けることなく、ネイルチップを爪部の全領域に亘って全体的に貼り付けることができ、簡易に美しいネイルアートを楽しむことができるという効果を奏する。

【図面の簡単な説明】

【0017】

【図1】本発明に係るネイルプリント装置の一実施形態を概念的に示した斜視図で、蓋体を開いた状態を示している。

【図2】図1のネイルプリント装置の装置本体を概念的に示した斜視図である。

【図3】図2における装置本体を正面側から見た場合の断面図である。

【図4】図2における装置本体を右側から右側面側から見た場合の断面図である。

【図5】（A）は、対象指の爪部の見かけ寸法と爪長さを説明する説明図であり、（B）は、爪部の見かけ寸法と爪実寸幅との関係を示す説明図であり、（C）は、爪部の側部を示す右側面図である。

【図6】図1のネイルプリント装置を示したブロック図である。

【図7】ROMに格納されている爪実寸幅対応付けテーブルの一例を示す構成図である。

【図 8】R A M に格納されている爪領域関連データの一例を示す構成図である。

【図 9】( A ) は、人差し指の爪領域画像、爪幅付加画像、合成爪領域画像を示す図であり、( B ) は、親指の爪領域画像、爪幅付加画像、合成爪領域画像を示す図である。

【図 10】( A ) は、4 本指用の指保持部材の側断面図であり、( B ) は、4 本指用の指保持部材の正面図であり、( C ) は、親指用の指保持部材の側断面図であり、( D ) は、親指用の指保持部材の正面図である。

【図 11】( A ) は、4 本指用の指保持部材を裏返した状態の側断面図であり、( B ) は、本実施形態のネイルチップシートの断面図であり、( C ) は、ネイルチップシートに印刷後剥離層を剥離する状態を示す断面図であり、( D ) は、切り離したネイルチップを指の爪上に貼り付けた状態を示す断面図である。

10

【図 12】( A ) は、爪部にネイルチップを貼り付ける様子を示す正面図であり、( B ) は、爪部にネイルチップが貼り付けられた状態を示す正面図である。

【図 13】ネイルチップ印刷制御処理の全体の流れを示すフローチャートである。

【図 14】爪領域画像変形処理のフローチャートである。

【図 15】印刷処理のフローチャートである。

【図 16】操作部と表示部のデザイン選択画面との一例を示す図である。

【図 17】表示部の指挿入指示画面の一例を示す図である。

【図 18】表示部の保持部材挿入指示画面の一例を示す図である。

【図 19】図 1 のネイルプリント装置の印刷指固定部とその第 1 の指挿入部に挿入される 4 本指用の指保持部材とを示した側断面図である。

20

【図 20】図 1 のネイルプリント装置の印刷指固定部の第 1 の指挿入部に 4 本指用の指保持部材が挿入された状態を示した側断面図である。

【図 21】図 1 のネイルプリント装置の印刷指固定部の第 1 の指挿入部に親指用の指保持部材が挿入された状態を示した側断面図である。

【図 22】表示部の保持部材取出指示画面の一例を示す図である。

【図 23】表示部のシート載置指示画面の一例を示す図である。

【図 24】表示部の保持部材再挿入指示画面の一例を示す図である。

【図 25】図 1 のネイルプリント装置の指保持部材を裏返した状態を示した斜視図である。

【図 26】図 1 のネイルプリント装置の印刷指固定部の第 1 の指挿入部にネイルチップシートが載置された 4 本指用の指保持部材が挿入された状態を示した側断面図である。

30

【図 27】5 本分の合成爪領域画像の輪郭線及びデザイン画像が印刷されたネイルチップシートを示した図である。

【図 28】図 27 のネイルチップシートから切り離された 5 つの爪用のネイルチップを示した図である。

【図 29】5 本分の合成爪領域画像の輪郭線が印刷されたネイルチップシートを示した図である。

【図 30】図 1 のネイルプリント装置の一変形例を概念的に示した斜視図である。

【図 31】ネイルプリント装置の一変形例に設けられる表面領域画像取得手段を概念的に示した正面図である。

40

【発明を実施するための形態】

【0018】

以下に、本発明に係るネイルプリント装置の一実施形態について、図 1 から図 29 を参照しつつ説明する。

図 1 は、本実施形態におけるネイルプリント装置の外観を示す斜視図であり、図 2 は、ネイルプリント装置の内部構成を示す斜視図である。

本実施形態においてネイルプリント装置 1 は指の爪部に貼り付けられるネイルチップ 70 ( 図 27 ~ 図 29 参照 ) を生成可能な装置であって、図 1 に示すように、ネイルプリント装置 1 は、ケース本体 2、蓋体 4 の他、ネイルチップ 70 の生成に必要な情報の収集対象となる爪に対応する指 ( 対象指 U ) が挿入される指挿入部である第 1 の指挿入部 20 a

50

等を備えるプリント装置本体 10、この第 1 の指挿入部 20a に挿脱可能に構成された指保持部材 6 等を備えている。

【0019】

ケース本体 2 及び蓋体 4 は、ケース本体 2 の上面後端部に設けたヒンジ 3 を介して、互いに連結されている。

上記ケース本体 2 は平面視で長円状に形成されている。このケース本体 2 の前側には開閉板 2c が起倒可能に設けられている。この開閉板 2c は、ケース本体 2 の前面下端部に設けたヒンジ（図示せず）を介して、ケース本体 2 に連結されている。この開閉板 2c は、ケース本体 2 の前面を開閉するためのものである。このケース本体 2 の前面が開放された状態で、ネイルプリント装置 1 は使用される。また、ケース本体 2 の天板 2f には後述する操作部 25 が設置されている。さらに、蓋体 4 の内面には表示部 26 が設置されている。

10

【0020】

また、図 2 に示すように、ケース本体 2 にはネイルプリント装置 1 のプリント装置本体 10 が収容されている。このプリント装置本体 10 は、印刷指固定手段を構成している印刷指固定部 20、撮影手段を構成している撮影部 30、印刷手段を構成している印刷部 40、制御手段を構成している制御装置 50（図 6 参照）、操作部 25 及び表示部 26 を備えている。これらのうち印刷指固定部 20、撮影部 30、印刷部 40 及び制御装置 50 は機枠 11 に設けられている。

なお、機枠 11 は下部機枠 11a 及び上部機枠 11b から構成されている。そして、下部機枠 11a は箱状に形成され、ケース本体 2 の内部下方に設置されている。一方、上部機枠 11b は下部機枠 11a の上方で且つケース本体 2 の内部上方に設置されている。

20

【0021】

上記印刷指固定部 20 は、機枠 11 の中の下部機枠 11a に設けられている。この印刷指固定部 20 は、下部機枠 11a に設けられた第 1 の指挿入部 20a、第 2 の指挿入部 20b 及び掴み部 20c によって構成されている。

【0022】

第 1 の指挿入部 20a は、指の爪部に貼り付けるネイルチップ 70（図 27～図 29 参照）の生成に必要な情報の収集対象となる爪部 T に対応する指（以下「対象指 U」とする。図 19 等参照）を挿入するための指挿入部である。本実施形態では、対象指 U が後述する指保持部材 6 に保持された状態で第 1 の指挿入部 20a 内に挿入されるようになっている。

30

なお、以下では、爪部 T のうち、親指の爪部を T1、人差し指の爪部を T2、中指の爪部を T3、薬指の爪部を T4、小指の爪部を T5 とする（図 19 等参照）が、単に「爪部 T」としたときは、これらの爪部 T を総称するものとする。また、対象指 U のうち、親指を U1、人差し指を U2、中指を U3、薬指を U4、小指を U5 とする（図 8 等参照）が、単に「対象指 U」としたときは、これら対象指 U を総称するものとする。

【0023】

また、第 2 の指挿入部 20b は、対象指 U 以外の非対象指 N を挿入するための指挿入部である。

40

また、掴み部 20c は、第 1 の指挿入部 20a に挿入された対象指 U と、第 2 の指挿入部 20b に挿入された非対象指 N とで挟持可能な部分である（図 19 から図 21 参照）。この掴み部 20c は第 1 の指挿入部 20a と第 2 の指挿入部 20b とを仕切る隔壁 21 によって構成されている。

なお、上記第 2 の指挿入部 20b 及び上記掴み部 20c を設けなくてもよいが、これらを設けることにより、第 1 の指挿入部 20a 内に挿入された指保持部材 6 及びこれに保持されている対象指 U をより安定させることができ、対象指 U を固定するために極めて有効である。

【0024】

上記隔壁 21 の上面は平坦な指保持部材載置面を構成している。この指保持部材載置面

50

は第1の指挿入部20aに挿入された指保持部材6を載置するためのものである。なお、この指保持部材載置面は、上記第2の指挿入部20b及び上記掴み部20cを設けない場合には、上記第1の指挿入部20aの床面によって構成されることになる。

この隔壁21の指保持部材挿入側端部には膨出部22が形成されている(図19から図21参照)。この膨出部22は、第1の指挿入部20aに指保持部材6を深く挿入し、第2の指挿入部20bに非対象指Nを深く挿入した際に、対象指U及び非対象指Nの付け根が当接する部分に形成されている。この膨出部22は、対象指Uと非対象指Nとで隔壁21(掴み部20c)を挟持する際に、対象指Uと非対象指Nとの付け根で包持されるものである。ここで「包持」とは、対象指Uと非対象指Nとの付け根が当接し、膨出部22を掴めることである。この膨出部22の包持によって、手首の左右の振れや上下の振れが抑制されて、手先を安定させることができる。

10

この膨出部22は、図19から図21に示すように、指保持部材6の挿入方向に沿った断面で見た場合(側面視で)、隔壁21の下面から下方に向けて膨出するように円形となっている。なお、膨出部22の形状は、断面円形に限定されることなく、断面楕円形、断面多角形等の非円形であってもよい。要は、対象指Uと非対象指Nとの付け根で包持される形状であればよい。

なお、膨出部22の大きさ、すなわち、隔壁21の厚み方向の厚みは、対象指Uと非対象指Nとの付け根が膨出部22に十分に当接するように、1~2cm程度が好ましく、隔壁21の厚みは、指先の腹が隔壁21にしっかりと圧接できるように、膨出部22の厚みよりも0.5~1cm程度小さいことが好ましい。

20

#### 【0025】

次に、撮影部30について説明する。この撮影部30は、図2から図4に示すように、機枠11の中の上部機枠11bに設けられている。

すなわち、上部機枠11bに設置された基板31の中央部下面には、ドライバーを内蔵した200万画素程度以上の画素を有するカメラ32が設置されている。また、基板31には、カメラ32を囲むように白色LED等の照明灯33が設置されている。本実施形態において、撮影部30は、このカメラ32及び照明灯33を含んで構成されている。

この撮影部30は、照明灯33によって対象指Uを照明し、カメラ32によってその対象指Uを撮影して、ネイルチップ70の生成に必要な情報である指の爪部Tに対応する爪領域画像を取得する爪領域画像取得手段である。

30

なお、本実施形態において、撮影部30のカメラ32は、第1の指挿入部20a内に挿入されている対象指Uを1本ずつ撮影するようになっている。カメラ32が1回の撮影において撮影可能な範囲は、対象指Uの指挿入方向(図5(A)におけるY方向)については、第1の指挿入部20a内に挿入され得る各種の対象指U(すなわち、親指U1~小指U5)の爪部Tの長さ(図5(A)における爪長さH)をカバー可能な範囲となっている。また、対象指Uの幅方向(図5(A)におけるX方向)における撮影可能な範囲は、第1の指挿入部20a内に挿入され得る各種の対象指U(すなわち、親指U1~小指U5)を真上方向から見た平面視における爪部Tの幅方向の見かけ寸法Wa(図5(A)、図5(B)参照)よりも大きくなっている。

この撮影部30は、後述する制御装置50の制御部51に接続され、該制御部51によって制御されるようになっている。

40

#### 【0026】

また、印刷部40は、撮影部30によって撮影された爪領域画像等に基づいて生成された後述の合成爪領域画像等を、ネイルチップ70を生成するためのネイルチップシート7(図11(B)等参照)に対して印刷する印刷手段であり、図2から図4に示すように、機枠11(主に上部機枠11b)に設けられている。

すなわち、上部機枠11bの両側板には2本のガイドロッド41が平行に架設されている。このガイドロッド41には、主キャリッジ42が摺動自在に設置されている。また、主キャリッジ42の前壁42aおよび後壁42bには2本のガイドロッド44が平行に架設されている。このガイドロッド44には、副キャリッジ45が摺動自在に設置されてい

50



る。この副キャリッジ４５の下面中央部に印刷ヘッド４６が搭載されている。

本実施形態において、この印刷ヘッド４６は、インクを微滴化し、被印字媒体に対し直接に吹き付けて印刷を行うインクジェット方式の印刷ヘッドである。なお、印刷ヘッド４６の記録方式はインクジェット方式に限定されず、感熱印刷方式などの他の各種の印刷方式が採用可能である。

#### 【００２７】

主キャリッジ４２は動力伝達手段（図示せず）を介してモータ４３に連結され、モータ４３の正逆回転によって、ガイドロッド４１に沿って左右方向に移動ように構成されている。また、副キャリッジ４５は動力伝達手段（図示せず）を介してモータ４７に連結され、モータ４７の正逆回転によって、ガイドロッド４４に沿って前後方向に移動するように構成されている。この主キャリッジ４２及び副キャリッジ４５の移動と、印刷ヘッド４６からのインクの吐出とによって、指保持部材６のシート配置部６５（図１１（Ａ）等参照）に載置されたネイルチップシート７への印刷が可能となる。

10

また、下部機枠１１ａには、印刷ヘッド４６にインクを供給するためのインクカートリッジ４８が設けられている。インクカートリッジ４８は、図示しないインク供給管を介して印刷ヘッド４６と接続されており、適宜印刷ヘッド４６にインクを供給するようになっている。なお、印刷ヘッド４６自体にインクカートリッジを搭載する構成としてもよい。

#### 【００２８】

印刷部４０は、これらガイドロッド４１、主キャリッジ４２、モータ４３、ガイドロッド４４、副キャリッジ４５、印刷ヘッド４６、モータ４７及びインクカートリッジ４８等を備えて構成されている。この印刷部４０のモータ４３、印刷ヘッド４６、モータ４７は、後述する制御装置５０の制御部５１に接続され、該制御部５１によって制御されるようになっている。

20

#### 【００２９】

操作部２５は、ユーザが各種入力操作を行うための入力手段である。操作部２５は、ケース本体２の天板２ｆに設けられており、本実施形態における操作部２５には、電源キー２５ａ、カメラキー２５ｂ、印刷キー２５ｃ、停止キー２５ｄ、文字入力キー２５ｅ、選択キー２５ｆ、カーソルキー２５ｇ及び決定キー２５ｈ等が設けられている（図１６参照）。

ここで、文字入力キー２５ｅ、選択キー２５ｆ、カーソルキー２５ｇは、印刷すべきデザインの選択等に使用されるキーである。また、決定キー２５ｈは、文字入力キー２５ｅ、選択キー２５ｆ、カーソルキー２５ｇによって選択されたデザインを確定等するためのキーである。電源キー２５ａは、ネイルプリント装置１の電源をＯＮ／ＯＦＦするためのキーである。カメラキー２５ｂは、撮影部３０による撮影を開始させるためのトリガとなるキーである。また、印刷キー２５ｃは、印刷制御処理の開始のためのトリガとなるキーである。また、停止キー２５ｄは、印刷制御処理を停止させる際に使用されるキーである。

30

本実施形態では、この操作部２５と後述するデザイン設定部５１１とにより、ネイルチップシート７上に印刷しようとするデザイン画像を指定するデザイン指定手段が構成される。

40

#### 【００３０】

なお、本実施形態では、ネイルプリント装置１のＲＯＭ５２（図６参照）等にネイルチップシート７に印刷するデザイン画像（例えば図１６の表示部２６に表示されているデザイン画像ａ～ｅ）が記憶されており、ユーザが操作部２５等进行操作することにより所望のデザイン画像が指定されると、指定されたデザイン画像と後述する合成爪領域画像とが合成され、合成爪領域画像の輪郭を示す線とともにデザイン画像をもネイルチップシート７上に印刷される場合を例として説明する。ただし、デザイン画像を印刷することは本発明の必須の要素ではなく、ネイルプリント装置１は合成爪領域画像の輪郭を示す線のみをネイルチップシート７上に印刷するものであってもよい。この場合には、ＲＯＭ５２（図６参照）等にデザイン画像が記憶されている必要はなく、また、デザイン設定部５１１等か

50

らなるデザイン指定手段を備える必要もない。

#### 【0031】

表示部26は、例えば液晶パネル（液晶ディスプレイ（LCD：Liquid Crystal Display））等で構成され、印刷制御処理を行う際に各種表示を行う表示手段である。なお、表示部26は液晶パネルで構成されるものに限定されず、例えば有機ELディスプレイ等であってもよい。

なお、表示部26の表面に、タッチパネルが一体的に構成されていてもよい。この場合には、図示しないスタイラスペンや指先等により表示部26の表面をタッチすることによっても各種の入力を行うことができるように構成され、表示部26も操作部25と同様の機能を備える。

#### 【0032】

本実施形態において、表示部26は、例えば、ユーザにデザインの選択を促すデザイン選択画面（図16参照）、選択されたデザインをユーザの手指に重畳したデザイン合成画像を表示してユーザに確認を求めるデザイン確認画面等の他、各種の指示画面（図17、図18、図22から図24）等を表示するようになっている。

なお、本実施形態では、選択可能なデザイン画像として、デザイン画像a～eの5種類（図16の表示部26に表示されているデザイン画像a～e参照）の画像のデータが予めROM52等に記憶されており、ユーザは、操作部25やタッチパネルが構成された表示部26の画面を操作することにより複数のデザイン画像の中から所望のデザインを選択することができる。

#### 【0033】

また、制御装置50は上部機枠11bに設けられている。この制御装置50は、基板31に設置されており、図6に示すように、図示しないCPU（Central Processing Unit）等によって構成されている制御部51、記憶手段としてのROM（Read Only Memory）52及びRAM53（Random Access Memory）等を備えるコンピュータである。なお、記憶手段は、制御装置50内のROM52、RAM53に限定されず、他に記憶手段が設けられていてもよい。

#### 【0034】

この制御部51は、機能的に見た場合、デザイン設定部511、見かけ寸法測定部512、爪実寸幅取得部513、爪幅付加画像生成部514、合成爪領域画像生成部515、印刷制御部516、表示制御部517等を備えている。これらデザイン設定部511、見かけ寸法測定部512、爪実寸幅取得部513、爪幅付加画像生成部514、合成爪領域画像生成部515、印刷制御部516、表示制御部517等としての機能は、CPUとROM52に記憶されたプログラムとの共働によって実現される。

#### 【0035】

デザイン設定部511は、ネイルチップ70に印刷すべき文字又は絵柄等（ネイル画像を含む）の一つ、又はこれらの組み合わせからなるデザイン（以下単に「デザイン」という。）を割り当て設定するものであり、デザイン設定部511は、前述の操作部25等とともに、印刷しようとするデザイン画像を指定するデザイン指定手段を構成している。

デザイン設定部511は、このデザイン指定手段により指定されたデザイン画像をRAM53等の記憶手段に記憶させるようになっている。

#### 【0036】

見かけ寸法測定部512は、各指（対象指U）ごとに、平面視における爪部Tの幅方向Xの見かけ寸法Waを測定する見かけ寸法測定手段である。

本実施形態において、見かけ寸法測定部512は、爪領域画像取得手段である撮影部30により取得された複数の対象指Uごとの爪領域画像に基づいて、各爪部Tの幅方向Xの見かけ上の長さ寸法（以下「見かけ寸法Wa」という。図5（A）参照）を測定する。なお、見かけ寸法測定部512は、爪部Tの幅方向Xの見かけ寸法Waを測定可能なものであればよく、見かけ寸法Waを測定する手法はここに例示したものに限定されない。

見かけ寸法測定部512は、測定された爪部Tの見かけ寸法Waを各対象指UごとにR

10

20

30

40

50

ＡＭ５３等の記憶手段に爪領域関連データ５３１（図８参照）の「爪幅見かけ寸法」として記憶させるようになっている。

【００３７】

爪実寸幅取得部５１３は、見かけ寸法測定部５１２によって測定された爪部Ｔの幅方向Ｘの見かけ寸法Ｗａに対応する爪実寸幅Ｗｂ（図５（Ｂ）参照）を取得する爪実寸幅取得手段である。

本実施形態では、例えば、各対象指Ｕごとに見かけ寸法Ｗａと爪実寸幅と規定の爪長さとは対応付けた爪実寸幅対応付けテーブル５２１（図７参照）がＲＯＭ５２等に記憶されており、爪実寸幅取得部５１３は、見かけ寸法測定部５１２によって爪部Ｔの見かけ寸法Ｗａが測定されると、爪実寸幅対応付けテーブル５２１を参照して、当該見かけ寸法Ｗａに対応する爪実寸幅Ｗｂを取得する。

10

爪実寸幅取得部５１３は、取得した爪部Ｔの爪実寸幅を各対象指ＵごとにＲＡＭ５３等の記憶手段に爪領域関連データ５３１（図８参照）の「爪実寸幅」として記憶させるようになっている。

【００３８】

なお、本実施形態では、爪実寸幅対応付けテーブル５２１において、同じ見かけ寸法Ｗａであっても爪長さに応じて異なる爪実寸幅Ｗｂが対応付けられており、爪実寸幅取得部５１３は、爪長さをも考慮しつつ爪実寸幅Ｗｂを得ようになっている。なお、爪実寸幅Ｗｂを取得する際に爪長さをも考慮することは必須ではなく、爪長さを考慮せず見かけ寸法Ｗａとの対応付けのみによって爪実寸幅Ｗｂを取得するようになっていてもよい。この場合には、爪実寸幅対応付けテーブル５２１には見かけ寸法Ｗａと爪実寸幅Ｗｂとの対応付けのみが規定される。

20

【００３９】

ここで爪実寸幅Ｗｂとは、実際の爪部Ｔの湾曲形状を考慮した爪部Ｔの幅寸法である。図５（Ｂ）に示すように、爪部Ｔは、幅方向Ｘの中央部分近傍が盛り上がった湾曲形状をしているため、この湾曲形状を考慮した値である爪実寸幅Ｗｂは、爪部Ｔを真上方向から見た場合の平面視における爪部Ｔの幅方向Ｘの長さである見かけ寸法Ｗａよりも大きな幅寸法となっている。なお、爪実寸幅対応付けテーブル５２１における爪長さは、予め見かけ寸法Ｗａに対応付けられて設定されている規定値である。

【００４０】

30

なお、爪実寸幅取得部５１３が爪実寸幅Ｗｂを取得する手法はこれに限定されない。例えば、爪実寸幅対応付けテーブル５２１等を用いずに、見かけ寸法測定部５１２によって測定された爪部Ｔの見かけ寸法Ｗａに一定の値を加算することによって爪実寸幅Ｗｂを算出してもよい。この場合には、爪実寸幅対応付けテーブル５２１を備えない構成とすることができる。

【００４１】

爪幅付加画像生成部５１４は、爪実寸幅取得部５１３により取得されＲＡＭ５３等の記憶手段に記憶された爪部Ｔの爪実寸幅Ｗｂ及び爪部Ｔの長さ寸法（爪長さＨ）の双方に対応する爪幅付加画像Ｂを生成する爪幅付加画像生成手段である。

具体的には、爪幅付加画像生成部５１４は、例えば爪実寸幅Ｗｂと見かけ寸法Ｗａとの差分値を算出し、この差分値を２等分して爪幅付加画像Ｂの幅寸法とする。そしてこの幅寸法を幅方向の寸法とし爪部Ｔの長さ寸法（爪長さＨ）を長さ方向の寸法とする左右一對の爪幅付加画像Ｂを生成する。

40

爪幅付加画像生成部５１４は、生成した爪幅付加画像Ｂを各対象指ＵごとにＲＡＭ５３等の記憶手段に爪領域関連データ５３１（図８参照）の「爪幅付加画像」として記憶させるようになっている。

【００４２】

なお、爪幅付加画像Ｂを生成する際に爪部Ｔの長さ寸法（爪長さＨ）を考慮することは必須ではなく、爪幅付加画像生成部５１４は、爪部Ｔの爪実寸幅Ｗｂのみに基づいて爪幅付加画像Ｂを生成してもよい。

50

また、本実施形態では、撮影部 30 によりユーザの対象指 U を撮影することによって取得された爪領域画像から爪部 T の縦方向 Y (図 5 (A) 参照) の長さ寸法 (図 5 (A) の「爪長さ H」) を測定して、これを爪領域関連データ 531 として RAM 53 等の記憶手段に記憶させておき、爪幅付加画像生成部 514 は、爪幅付加画像 B を生成する際に、RAM 53 等に記憶されている爪領域関連データ 531 からこのユーザの爪部 T の爪長さ H と爪部 T の爪実寸幅 Wb とに対応する爪幅付加画像 B を生成するようになっているが、爪部 T の爪長さ H は、ユーザの爪領域画像 A に基づいて測定されたものに限定されない。例えば、爪実寸幅対応付けテーブル 521 に爪実寸幅 Wb の他、爪部 T の爪長さ H についても規定値を見かけ寸法 Wa と対応付けて記憶させておき、爪幅付加画像生成部 514 は、この規定の爪長さ H と爪実寸幅 Wb とに基づいて爪幅付加画像 B を生成してもよい。

10

また、本実施形態では、爪幅付加画像 B の形状を、図 9 (A) に斜線で示すように、狩猟やスポーツに使われる棍棒の一種であるブーメランの形状としたがこれに限定されず、たとえば、三日月形状、円弧形状等の他の形状でもよい。

#### 【0043】

合成爪領域画像生成部 515 は、爪幅付加画像生成部 514 によって生成された爪幅付加画像 B を爪領域画像 A の左右両側部に合成して合成爪領域画像 G を生成する合成爪領域画像生成手段である。

合成爪領域画像生成部 515 は、生成した合成爪領域画像 G を各対象指 U ごとに RAM 53 等の記憶手段に爪領域関連データ 531 (図 8 参照) の「合成爪領域画像」として記憶させるようになっている。

20

#### 【0044】

合成爪領域画像生成部 515 は、爪幅付加画像を撮影部 30 により取得された爪領域画像 A の左右側部に合成して、例えば図 9 (A)、図 9 (B) に示すような合成爪領域画像 G を生成する。

図 9 (A) は例えば人差し指 U2 の合成爪領域画像 G2 の一例であり、図 9 (B) は親指 U1 の合成爪領域画像 G1 の一例である。合成爪領域画像 G は、爪部 T の見かけ寸法 Wa に対応する爪領域画像 A と当該爪領域画像 A の左右両側にそれぞれ付加された爪幅付加画像 B とを合成した画像 (すなわち、 $G = A + B$ ) である。

#### 【0045】

印刷制御部 516 は、合成爪領域画像生成部 515 によって生成された各指ごとの合成爪領域画像 G の輪郭を、ネイルチップシート 7 上に印刷されたときに各指の合成爪領域画像 G が互いにある程度の間隔を空けて配置されるように印刷用のデータを生成し、印刷部 40 に出力して印刷部 40 の印刷動作を制御する印刷制御手段である。

30

また、本実施形態では、爪部 T に印刷するデザイン画像を選択することができるようになっており、印刷制御部 516 は、デザイン指定手段により指定されたデザイン画像と合成爪領域画像生成部 515 によって生成された合成爪領域画像 G の輪郭とをネイルチップシート上に印刷させるように印刷用のデータを生成するようになっている。

さらに、印刷制御部 516 は、例えば図 27 及び図 29 に示すように、ネイルチップシート上に印刷された輪郭線 R1 ~ R5 に沿ってネイルチップ 70 を切断するよう指示するコメントをこれら輪郭線 R1 ~ R5 やデザイン画像とともに印刷するように印刷用のデータを生成することが好ましい。

40

#### 【0046】

本実施形態では、印刷制御部 516 は、片手の親指から小指までの 5 本の指について 1 枚のネイルチップシート 7 上に印刷できるように各指の合成爪領域画像 G の配置を調整し、印刷用のデータを生成するようになっている (図 27 及び図 29 参照)。

なお、1 枚のネイルチップシート 7 上に何本の指の合成爪領域画像 G を配置するかは、予め設定されていてもよいし、使用状況に応じてユーザが任意に設定できるようにしてもよい。例えば、親指を除く 4 本の指の合成爪領域画像 G のみが 1 枚のネイルチップシート 7 上に配置されるように印刷用のデータを生成してもよいし、両手の 10 本の指全てについて合成爪領域画像を生成した後に、当該 10 本分の合成爪領域画像 G が 1 枚のネイルチ

50

ップシート 7 上に配置されるように印刷用のデータを生成してもよい。

【0047】

表示制御部 517 は、表示手段としての表示部 26 に各種の表示を表示させる表示制御手段である。本実施形態では、表示制御部 517 は、前述のようにデザイン選択画面、デザイン確認画面、各種の指示画面等を表示部 26 に表示させるようになっている。

【0048】

なお、これらの各機能部の他、制御部 51 に、撮影部 30 により撮影された指爪画像に含まれている爪部 T の爪領域画像から爪部の輪郭を抽出する爪輪郭抽出手段としての爪輪郭抽出部を設けて、指爪画像から爪部 T の輪郭を抽出するようにしてもよい。

また、複数の対象指 U について撮影部 30 により複数の対象指 U に対応する複数の指爪画像（爪部 T についての爪領域画像を含む対象指 U の画像）が取得された場合に、各指爪画像から各指の種類を検出する指種類検出手段としての指種類検出部を制御部 51 に設けてもよい。この場合、指種類検出部は、例えば指爪画像の配置、長さ寸法や幅寸法等に基づいて各指爪画像の指種類を検出する。

【0049】

また、記憶手段としての ROM 52 は、爪領域画像 A（本実施形態では爪部 T の輪郭を示す線の画像）と爪幅付加画像 B とを合成して合成爪領域画像 G を生成するための合成爪領域画像生成プログラム、印刷用のデータを生成するための印刷用データ生成プログラム、印刷制御処理を行うための印刷制御処理プログラム等の各種プログラムが格納されており、これらのプログラムが制御装置 50 によって実行されることによって、ネイルプリント装置 1 の各部が統括制御されるようになっている。

【0050】

本実施形態においては、前述のように爪部 T に貼付するネイルチップ 70 に印刷可能なデザイン画像として、デザイン画像 a ~ e が選択できるようになっており、ROM 52 にはこれらデザイン画像 a ~ e に対応するデータが記憶されている。

また、ROM 52 には、例えば図 7 に示すような、各対象指 U ごとに見かけ寸法 W a と爪実寸幅と規定の爪長さとを対応付けた爪実寸幅対応付けテーブル 521 が記憶されている。本実施形態では、爪実寸幅対応付けテーブル 521 は、親指用、人差し指用、中指用、薬指用、小指用というように、指別にそれぞれ用意されている。なお、爪実寸幅対応付けテーブル 521 の形式はここに例示したものに限定されない。例えば、1 つのテーブルに親指 U 1 の見かけ寸法 W a として想定される最大幅から小指 U 5 の見かけ寸法 W a として想定される最小幅までの対応付けを規定しておいてもよい。また、1 つのテーブルの中に、親指 U 1 に対応する見かけ寸法 W a から小指 U 5 に対応する見かけ寸法 W a までを規定しておいてもよい。また、前述のように、見かけ寸法 W a のみから爪実寸幅 W b を取得する場合には、爪実寸幅対応付けテーブル 521 は見かけ寸法 W a と爪実寸幅 W b との対応付けのみで構成され、爪長さについては規定されていなくてもよい。

【0051】

また、本実施形態において記憶手段である RAM 53 は、各種データ等を記憶する記憶領域と、制御部 51 が各種処理を行う際にプログラム等を展開する作業領域（図示せず）とを備えている。

RAM 53 の記憶領域には、ユーザの爪領域関連データ 531 が記憶されている。

図 8 は、この爪領域関連データ 531 の一例を示したものである。なお、図 8 等における 1 ~ 5 までの数字は、親指（U 1）から小指（U 5）までの指番号を示している。

図 8 に示すように、爪領域関連データ 531 は、例えば、撮影部 30 により爪領域画像 A が取得された複数の対象指 U 1 ~ U 5 について、それぞれ爪領域画像 A（親指の爪領域画像 A 1 ~ 小指の爪領域画像 A 5）、爪部 T の幅方向 X の見かけ寸法 W a（親指の見かけ寸法 W a 1 ~ 小指の見かけ寸法 W a 1 ~ W a 5）、爪部の爪実寸幅 W b（親指の爪実寸幅 W b 1 ~ 小指の爪実寸幅 W b 5）、爪部の爪長さ H 1 ~ H 5（親指の爪長さ H 1 ~ 小指の爪長さ H 5）、爪幅付加画像 B（親指の爪幅付加画像 B 1 ~ 小指の爪幅付加画像 B 5）、合成爪領域画像 G（親指の合成爪領域画像 G 1 ~ 小指の合成爪領域画像 G 5、なお、合成

爪領域画像 G は、爪領域画像 A + 爪幅付加画像 B である ) が、それぞれ指ごとに対応付けられて記憶されたものである。

また、RAM 53 の記憶領域には、ROM 52 に予め記憶されている印刷可能なデザインデータの中から、操作部 25 からの入力情報に基づいて各指に貼付するネイルチップ 70 に印刷すべきデザイン画像として指定されたデザイン画像のデータ ( デザインデータ ) が親指の合成爪領域画像 G1 ~ 小指の合成爪領域画像 G5 等と対応付けられて記憶されている。

なお、RAM 53 の記憶領域には、ROM 53 に記憶されたデザインデータから選択されたデザインデータのみならず、後に使用者によって付加された新たなデザインデータを記憶しておいてもよい。

#### 【 0052 】

次に、本実施形態における指保持部材 6 について、図 1 及び図 10 を参照しつつ説明する。

図 1 に示すように、本実施形態において、第 1 の指挿入部 20a 内には、人差し指から小指までの 4 本の指を対象指 U ( U2 ~ U5 ) として保持する 4 本指用の指保持部材 6a と、対象指 U として親指 ( U1 ) を保持する親指用の指保持部材 6b とが選択的に挿入可能となっている。なお、以下において、単に指保持部材 6 とするときは、4 本指用の指保持部材 6a 及び親指用の指保持部材 6b の双方を含むものとする。

図 10 ( A ) は、4 本指用の指保持部材 6a の側断面図であり、図 10 ( B ) は、4 本指用の指保持部材 6a を指の挿入方向から見た正面図である。また、図 10 ( C ) は、親指用の指保持部材 6b の側断面図であり、図 10 ( D ) は、親指用の指保持部材 6b を指の挿入方向から見た正面図である。

#### 【 0053 】

図 1、図 10 ( A ) 及び図 10 ( B ) に示すように、4 本指用の指保持部材 6a は 4 本指を保持可能な保持部材本体 60 を備えており、この保持部材本体 60 には、4 本指用の指保持部材 6a の指挿入側正面に開口する指保持部としての 4 つの指挿入孔 61 が設けられている。指挿入孔 61 の内部上面は、指挿入方向のほぼ中央部から開口側に向かって上方に傾斜している。なお、指挿入孔 61 の形状や構造は図示例に限定されないが、指は指先から付け根にいくにしたがって厚みが大きくなるため、図示例のように指挿入孔 61 の内部上面に傾斜をつけた場合には対象指 U をスムーズに指挿入孔 61 の奥まで挿入することができ、好ましい。なお、指挿入孔 61 の内部上面に傾斜をつける代わりに、指挿入孔 61 の内部上面に指挿入方向の奥側よりも開口側の方が上下方向の厚みが厚くなるように段差を設けてもよい。

各指挿入孔 61 の間是指仕切部 62 となっており、各指挿入孔 61 に 4 本の対象指 U ( 人差し指 U2 から小指 U5 ) が挿入されたときに、各対象指 U の間に適度に隙間が開くようになっている。指仕切部 62 の厚みは特に限定されないが、対象指 U 同士が接近し過ぎていると各対象指 U の爪部の輪郭の認識がしにくくなることから、本実施形態のように、指仕切部 62 によって各対象指 U の間に適度の間隔が保たれるようにすることが好ましい。

#### 【 0054 】

4 本指用の指保持部材 6a の表面 ( 対象指 U が挿入される際に上側 ( 図 10 ( A ) 及び図 10 ( B ) における上側 ) となる面 ) 側であって指挿入方向の奥側には、各指挿入孔 61 に対応する位置に、各指挿入孔 61 に挿入された各対象指 U ( 人差し指から小指 ) の爪部を露出させる爪部露出孔 63 が形成されている。

また、4 本指用の指保持部材 6a の裏面 ( 対象指 U が挿入される際に下側 ( 図 10 ( A ) 及び図 10 ( B ) における下側 ) となる面 ) 側であって指挿入方向の奥側には、後述するネイルチップシート 7 を載置するシート配置部 65 が形成されている。シート配置部 65 は、本実施形態におけるネイルプリント装置 1 で用いられるネイルチップシート 7 の厚みとほぼ同じ深さの切り欠き部である。シート配置部 65 の縦横の寸法は、ネイルチップシート 7 の縦横の寸法と同じかこれよりも多少大きくなっている。

## 【 0 0 5 5 】

図 1、図 1 0 ( C ) 及び図 1 0 ( D ) に示すように、親指用の指保持部材 6 b は親指を保持可能な保持部材本体 6 0 を備えており、この保持部材本体 6 0 には、親指用の指保持部材 6 b の指挿入側正面に開口する指保持部としての 1 つの指挿入孔 6 1 が設けられている。指挿入孔 6 1 の内部上面には、指挿入方向の奥側よりも開口側の方が上下方向の厚みが厚くなるように段差が設けられている。なお、指挿入孔 6 1 の形状や構造は図示例に限定されないが、指は指先から付け根にいくにしたがって厚みが大きくなるため、図示例のように指挿入孔 6 1 の内部上面に段差をつけて開口側の方が上下方向の厚みが厚くなるようにした場合には対象指 U ( 親指 U 1 ) をスムーズに指挿入孔 6 1 の奥まで挿入することができ、好ましい。なお、4 本指用の指保持部材 6 b の指挿入孔 6 1 と同様に、指挿入孔 6 1 の内部上面が指挿入方向のほぼ中央部から開口側に向かって上方向に傾斜するように構成してもよい。

10

## 【 0 0 5 6 】

親指用の指保持部材 6 b の表面 ( 対象指 U が挿入される際に上側 ( 図 1 0 ( C ) 及び図 1 0 ( D ) における上側 ) となる面 ) 側であって指挿入方向の奥側には、指挿入孔 6 1 に対応する位置に、指挿入孔 6 1 に挿入された対象指 U ( 親指 U 1 ) の爪部を露出させる爪部露出孔 6 3 が形成されている。

また、親指用の指保持部材 6 b の裏面 ( 対象指 U が挿入される際に下側 ( 図 1 0 ( C ) 及び図 1 0 ( D ) における下側 ) となる面 ) 側であって指挿入方向の奥側には、後述するネイルチップシート 7 を載置するシート配置部 6 5 が形成されている。シート配置部 6 5 は、前記 4 本指用の指保持部材 6 a に設けられているシート配置部 6 5 と同様のものであるため、その説明を省略する。

20

## 【 0 0 5 7 】

図 1 1 ( A ) は、4 本指用の指保持部材 6 a の表裏を裏返して、4 本指用の指保持部材 6 a の裏面側に設けられているシート配置部 6 5 にネイルチップシート 7 を載置する様子を示した図である。図 1 1 ( A ) に示すように、シート配置部 6 5 にネイルチップシート 7 を載置すると、4 本指用の指保持部材 6 a のシート配置部 6 5 側の面がほぼ面一となるようになっている。

また、図 1 1 ( B ) は、本実施形態において用いられるネイルチップシート 7 の構成を示した断面図である。図 1 1 ( B ) に示すように、ネイルチップシート 7 は、フィルム上のシートであり、インクが吐出され印刷が施される被印刷層 7 1 と、接着剤層 7 2 と、剥離層 7 3 とが順に重ね合わされて構成されている。

30

図 1 1 ( C ) に示すように、ネイルチップシート 7 上にインクが吐出されると、被印刷層 7 1 の上にネイル印刷層 8 が形成される。ネイルチップシート 7 は、印刷後、ユーザがネイルチップシート 7 上に印刷された爪部の輪郭を示す線に沿って切断することにより、それぞれ対応する指の爪部 T に沿う形状のシール状のネイルチップ 7 0 ( 図 2 7 ~ 図 2 9 等において、親指用のネイルチップ 7 0 a、人差し指用のネイルチップ 7 0 b、中指用のネイルチップ 7 0 c、薬指用のネイルチップ 7 0 d、小指用のネイルチップ 7 0 e ) となる。ユーザは、例えば図 1 1 ( C ) に点線で示す部分を切断して各爪部 T ごとのネイルチップ 7 0 とした後、各ネイルチップ 7 0 の剥離層 7 3 を剥がして接着剤層 7 2 を露出させ、それぞれ対応する爪部 T の上に貼り付ける。なお、図 1 1 ( D ) は、指の爪部 T の上にネイルチップ 7 0 が貼り付けられた状態を示したものである。

40

## 【 0 0 5 8 】

本実施形態では、図 1 2 ( A ) に示すように、ネイルチップ 7 0 は、爪領域画像 A に対応する本体部分 7 0 1 と、爪幅付加画像 B に対応する付加部分 7 0 2 とからなっている。

前述のように、人間の爪部 T は、平板形状ではなく、幅方向 X の中央部分近傍が盛り上がった湾曲形状をしており ( 図 5 ( B ) 等参照 )、爪部 T を真上方向から見た場合の見かけ寸法 W a は、実際の爪部 T の爪領域の幅方向 X の実寸値 ( 爪実寸幅 W b ) よりも短くなっている ( 図 5 ( B ) 参照 )。このため、真上方向からの平面視に基づく見かけ寸法 W a に基づいてネイルチップ 7 0 を生成すると、幅方向 X の長さが足りず、ネイルチップ 7 0

50

を爪部 T に貼り付けた際に爪部 T の両側部に隙間ができてしまう。

この点、図 1 2 ( A ) に示すように、本体部分 7 0 1 に付加部分 7 0 2 を付加して、見かけ寸法 W a よりも大きな幅寸法である爪実寸幅 W b に対応したネイルチップ 7 0 を生成した場合には、図 1 2 ( B ) に示すように、ネイルチップ 7 0 を爪部 T に貼り付けたときに左右に隙間ができず、爪部 T の全域に亘ってきれいにネイルチップ 7 0 を貼り付けることができる。

#### 【 0 0 5 9 】

次に、上記ネイルプリント装置 1 における印刷制御処理の流れを図 1 3 から図 1 5 のフローチャート及び図 1 6 から図 2 9 に基づいて説明する。

#### 【 0 0 6 0 】

図 1 3 は、本実施形態における印刷制御処理の全体的な流れを示すフローチャートである。図 1 3 に示すように、ネイルチップの印刷制御処理の全体的な流れとしては、まず、ネイルプリント装置 1 の制御部 5 1 は、電源キー 2 5 a ( 図 1 6 参照 ) が操作されたか否かを判断し ( ステップ S 1 ) 、電源キー 2 5 a が操作されない場合 ( ステップ S 1 ; N O ) には、ステップ S 1 の判断を繰り返し、電源キー 2 5 a が操作されたと判断した場合 ( ステップ S 1 ; Y E S ) には、デザイン選択画面 ( 図 1 6 参照 ) を表示部 2 6 に表示させる ( ステップ S 2 ) 。本実施形態では、選択可能なデザイン画像として、デザイン画像 a ~ e の 5 種類の画像のデータが予め R O M 5 2 等に記憶されているので、図 1 6 の表示部 2 6 にデザイン画像 a ~ e が表示される。ユーザは、操作部 2 5 の操作またはタッチパネルが構成された表示部 2 6 の画面を直接のタッチ操作することにより複数のデザイン画像 a ~ e の中から所望のデザイン画像を選択することができる。

例えば、ユーザによりデザイン画像 a が選択されると、制御部 5 1 は、図 1 6 の表示部 2 6 にデザイン画像 a が選択された状態を示す識別表示 ( 斜線で表示 ) を行う。その後、選択されたデザイン画像 a を手指の画像に重畳したデザイン確認用の画面としてデザイン合成画像を表示部 2 6 に表示させる ( ステップ S 3 ) 。

制御部 5 1 は、デザインを確定させるタッチ操作又はキー等によるスイッチ操作が行われたか否かを判断し ( ステップ S 4 ) 、操作が行われていない場合 ( ステップ S 4 ; N O ) には判断を繰り返す。そして、デザインを確定させる操作が行われたと判断した場合 ( ステップ S 4 ; Y E S ) には、確定されたデザイン画像のデータを R A M 5 3 ( 図 6 参照 ) に記憶させる ( ステップ S 5 ) 。なお、デザイン画像を印刷せず、合成爪領域画像 G の輪郭線 R のみを印刷する場合には、ステップ S 2 からステップ S 5 の処理を行わず、次のステップに進む。

#### 【 0 0 6 1 】

次に、ネイルチップ 7 0 を作成したい対象指 U について爪領域画像 A を取得し、これに爪幅付加画像 B を合成して合成爪領域画像 G を生成する爪領域画像変形処理を行う ( ステップ S 6 、図 1 4 参照 ) 。

爪領域画像変形処理を行う場合には、まず、制御部 5 1 は、指保持部材 6 の指挿入孔 6 1 に指を挿入するように促す指挿入指示画面 ( 図 1 7 参照 ) を表示部 2 6 に表示させる。なお、図 1 7 では、右手の 4 指を挿入する又は右手の親指を挿入するよう指示が表示されるようになっているが、指挿入指示画面の表示の内容はこれに限定されない。例えば、右手の 4 指について一連の処理が終了すると次に右手の親指を挿入するよう指示が表示され、右手の全指について処理が終了すると、同様に左手の指について挿入指示がなされるというように、順次指示が表示されるようになっていてもよい。

そして、制御部 5 1 は、指挿入孔 6 1 に指を挿入した状態で、指保持部材 6 を第 1 の指挿入部 2 0 a に挿入するように促すとともに、挿入後カメラ 3 2 のスイッチ ( カメラキー 2 5 b ) を操作するよう指示する保持部材挿入指示画面 ( 図 1 8 参照 ) を表示部 2 6 に表示させる。

図 1 9 から図 2 1 に示すように、指保持部材 6 が第 1 の指挿入部 2 0 a に挿入されると、指保持部材 6 に保持されている対象指 U の爪部 T が爪部露出孔 6 3 から露出し、撮影部 3 0 の下方に位置して撮影可能な状態となる。



## 【 0 0 6 2 】

図 1 4 は、爪領域画像変形処理を示すフローチャートである。

指保持部材 6 に保持されている対象指 U の爪部 T が爪部露出孔 6 3 から露出し、撮影可能な状態となると、図 1 4 に示すように、これらの爪部 T について、各対象指 U ごとにそれぞれ撮影部 3 0 による爪領域画像 A 1 ~ A 5 の撮影が行われる（図 1 4 のステップ S 2 1 ）。

撮影部 3 0 により爪領域画像 A 1 ~ A 5 が撮影されると、当該爪領域画像 A 1 ~ A 5 が爪領域関連データとして各対象指 U 1 ~ U 5 ごとに R A M 5 3 の記憶領域に記憶される（ステップ S 2 2 ）。

全ての対象指 U 1 ~ U 5 について撮影部 3 0 による爪領域画像 A 1 ~ A 5 の撮影が終了すると、制御部 5 1 は、ユーザに指保持部材 6 を第 1 の指挿入部 2 0 a から抜き取るよう促す保持部材取出指示画面（図 2 2 参照）を表示部 2 6 に表示させる。

## 【 0 0 6 3 】

爪領域画像 A 1 ~ A 5 が取得されると、見かけ寸法測定部 5 1 2 は、この爪領域画像 A 1 ~ A 5 から爪部 T の幅方向の見かけ寸法 W a （ W a 1 ~ W a 5 ）を測定する（ステップ S 2 3 ）。また、爪領域画像 A 1 ~ A 5 から爪部 T の爪長さ H （ H 1 ~ H 5 ）が制御部 5 1 により測定される。見かけ寸法測定部 5 1 2 により測定された各指ごとの見かけ寸法 W a 1 ~ W a 5 及び爪長さ H （ H 1 ~ H 5 ）は、爪領域関連データを構成するものとして R A M 5 3 （図 6 参照）に記憶される（ステップ S 2 4 ）。

そして、各対象指 U 1 ~ U 5 ごとの爪領域画像 A 1 ~ A 5 について見かけ寸法 W a 1 ~ W a 5 が測定されると、爪実寸幅取得部 5 1 3 は、 R O M 5 2 から爪実寸幅対応付けテーブル 5 2 1 （図 7 参照）を読み出して参照し、各対象指 U 1 ~ U 5 の爪部 T の見かけ寸法 W a 1 ~ W a 5 に対応する爪実寸幅 W b 1 ~ W b 5 を取得する（ステップ S 2 5 ）。例えば、人差し指 U 2 について、見かけ寸法測定部 5 1 2 によって測定されたユーザの見かけ寸法 W a 2 が 1 4 m m の場合には、これに対応する爪実寸幅 W b 2 である 2 0 m m を爪実寸幅 W b として取得する。爪実寸幅取得部 5 1 3 により取得された爪実寸幅 W b 1 ~ W b 5 は、 R A M 5 3 （図 6 参照）に記憶される（ステップ S 2 6 ）。

## 【 0 0 6 4 】

各対象指 U 1 ~ U 5 ごとの爪実寸幅 W b 1 ~ W b 5 が取得されると、爪幅付加画像生成部 5 1 4 は、この爪実寸幅 W b 1 ~ W b 5 と、爪部 T の爪長さ H 1 ~ H 5 に対応する一対の爪幅付加画像 B 1 ~ B 5 を各対象指 U 1 ~ U 5 ごとに生成する（ステップ S 2 7 ）。そして、合成爪領域画像生成部 5 1 5 は、爪幅付加画像生成部 5 1 4 により生成された爪幅付加画像 B 1 ~ B 5 を爪領域画像 A 1 ~ A 5 と合成し、合成爪領域画像 G 1 ~ G 5 （図 9 （ A ）、図 9 （ B ）参照）を生成する（ステップ S 2 8 ）。

爪幅付加画像生成部 5 1 4 により生成された爪幅付加画像 B 1 ~ B 5 及び合成爪領域画像生成部 5 1 5 により合成された合成爪領域画像 G 1 ~ G 5 は R A M 5 3 （図 7 参照）に記憶され（ステップ S 2 9 ）、爪領域画像変形処理は終了する。

## 【 0 0 6 5 】

爪領域画像変形処理が終了すると、印刷処理（図 1 3 のステップ S 7 ）が行われる。

印刷処理を行う際には、制御部 5 1 は、指保持部材 6 を裏返して、シート配置部 6 5 にネイルチップシート 7 を載置するよう促すシート載置指示画面（図 2 3 参照）を表示部 2 6 に表示させる（ステップ S 2 1 ）。さらに、ネイルチップシート 7 が載置された状態で指保持部材 6 を第 1 の指挿入部 2 0 a に挿入するよう促す保持部材再挿入指示画面（図 2 4 参照）を表示部 2 6 に表示させる。

保持部材再挿入指示画面（図 2 4 参照）が表示されると、ユーザは、図 2 5 に示すように、指保持部材 6 を裏返して、シート配置部 6 5 にネイルチップシート 7 を載置する。その上で、ネイルチップシート 7 が載置されたシート配置部 6 5 が上になるようにして、指保持部材 6 を第 1 の指挿入部 2 0 a に再度挿入する。図 2 6 は、ネイルチップシート 7 がシート配置部 6 5 に載置された状態で指保持部材 6 が第 1 の指挿入部 2 0 a に挿入された状態を示したものである。図 2 6 に示すように、ネイルチップシート 7 をシート配置部 6

10

20

30

40

50

5 に載置して指保持部材 6 を第 1 の指挿入部 2 0 a に挿入すると、ネイルチップシート 7 が印刷部 4 0 の下方に位置し、印刷可能な状態となる。

【 0 0 6 6 】

制御部 5 1 は、印刷キー 2 5 c ( 図 1 6 参照 ) が操作されたか否かを判断し、印刷キー 2 5 c ( 図 1 6 参照 ) が操作された場合には、ネイルチップシート 7 上に全指別に合成爪領域画像 G 1 ~ G 5 の輪郭線 R 1 ~ R 5 等を印刷する印刷処理が行われる ( 図 1 3 のステップ S 7、図 2 5 参照 )。

図 1 5 は、印刷処理 ( 図 1 3 のステップ S 7 ) を示すフローチャートである。

図 1 5 に示すように、印刷制御部 5 1 6 は、R A M 5 3 から各対象指 U 1 ~ U 5 ごとの合成爪領域画像 G 1 ~ G 5 を読み出す ( ステップ S 3 1 )。

制御部 5 1 は、デザイン画像が指定 ( ユーザのより選択 ) されているか否かを判断し ( ステップ S 3 2 )、デザイン画像が指定されている場合 ( ステップ S 3 2 ; Y E S ) には、各対象指 U 1 ~ U 5 ごとの合成爪領域画像 G 1 ~ G 5 の輪郭を示す線 ( 輪郭線 R 1 ~ R 5 ) と指定されたデザイン画像とをネイルチップシート 7 上に印刷する ( ステップ S 3 3、図 2 7 参照 )。

他方、デザイン画像が指定されていない場合 ( ステップ S 3 2 ; N O ) には、各対象指 U 1 ~ U 5 ごとの合成爪領域画像 G 1 ~ G 5 の輪郭を示す線 ( 輪郭線 R 1 ~ R 5 ) のみをネイルチップシート 7 上に印刷する ( ステップ S 3 4、図 2 9 参照 )。

【 0 0 6 7 】

印刷処理が終了すると、制御部 5 1 は、印刷の終了及び印刷後の手順を示す案内画面を表示部 2 6 に表示させる。印刷後の手順としては、例えば、指保持部材 6 を第 1 の指挿入部 2 0 a から抜き取る指示、合成爪領域画像 G 1 ~ G 5 の輪郭線 R 1 ~ R 5 に沿ってネイルチップシート 7 を切断して各指用のネイルチップ 7 0 a ~ 7 0 e ( 図 2 7 ~ 図 2 9 参照 ) を作成する指示、切断済みの各指用のネイルチップ 7 0 a ~ 7 0 e の剥離層 7 3 を剥がして、ユーザの各指 U 1 ~ U 5 に貼り付ける指示等がある。

【 0 0 6 8 】

図 2 7 は、ユーザによりデザイン画像が指定され、各対象指 U 1 ~ U 5 ごとの合成爪領域画像 G 1 ~ G 5 の輪郭線 R 1 ~ R 5 と指定されたデザイン画像とがネイルチップシート 7 上に印刷された場合のネイルチップシート 7 と各指用のネイルチップ 7 0 ( 親指用ネイルチップ 7 0 a、人差し指用ネイルチップ 7 0 b、中指用ネイルチップ 7 0 c、薬指用ネイルチップ 7 0 d、小指用ネイルチップ 7 0 e ) を示したものである。

図 2 8 は、図 2 7 のネイルチップシート 7 から切り離された 5 つの爪用のネイルチップ 7 0 ( 7 0 a ~ 7 0 e ) を示したものである。

また、図 2 9 は、ユーザによりデザイン画像が指定されず、各対象指 U 1 ~ U 5 ごとの合成爪領域画像 G 1 ~ G 5 の輪郭線 R 1 ~ R 5 のみがネイルチップシート 7 上に印刷された場合のネイルチップシート 7 と各指用のネイルチップ 7 0 ( 親指用ネイルチップ 7 0 a、人差し指用ネイルチップ 7 0 b、中指用ネイルチップ 7 0 c、薬指用ネイルチップ 7 0 d、小指用ネイルチップ 7 0 e ) を示したものである。

【 0 0 6 9 】

以上、本実施形態によれば、爪領域画像 A 1 ~ A 5 に爪実寸幅 W b を考慮して生成された爪幅付加画像 B 1 ~ B 5 を合成して合成爪領域画像 G 1 ~ G 5 を生成し、この合成爪領域画像 G 1 ~ G 5 の輪郭線 R 1 ~ R 5 をネイルチップシート 7 上に印刷する。このため、湾曲形状をした爪部 T の形状に合ったネイルチップ 7 0 a ~ 7 0 e を作成することができ、完成したネイルチップ 7 0 a ~ 7 0 e を隙間なく各指の爪部 T 全体に亘って貼り付けて、ネイルチップ 7 0 a ~ 7 0 e によるネイルアートをきれいに仕上げることができる。

また、撮影部 3 0 は、複数の対象指 U についてそれぞれ爪部 T に対応する爪領域画像 A 1 ~ A 5 を取得するものであり、見かけ寸法測定部 5 1 2 は、各指ごとに平面視における爪部 T の幅方向の見かけ寸法 W a 1 ~ W a 5 を測定し、爪実寸幅取得部 5 1 3 は、見かけ寸法測定部 5 1 2 によって測定された各指ごとの爪部 T の見かけ寸法 W a 1 ~ W a 5 に対応する爪実寸幅 W b 1 ~ W b 5 を取得する。そして、爪幅付加画像生成部 5 1 4 は、各指

10

20

30

40

50

ごとの爪部 T の爪実寸幅  $Wb1 \sim Wb5$  に対応する爪幅付加画像  $B1 \sim B5$  を生成し、合成爪領域画像生成部 515 は、この爪幅付加画像  $B1 \sim B5$  をそれぞれ各指ごとの爪領域画像  $A1 \sim A5$  の左右側部に合成して合成爪領域画像  $G1 \sim G5$  を生成する。そして、印刷制御部 516 は、合成爪領域画像生成部 515 により合成された合成爪領域画像  $G1 \sim G5$  の輪郭を印刷部 40 によりネイルチップシート 7 上に印刷させるため、ユーザの爪部 T の形状に合ったネイルチップ 70a ~ 70e を複数の対象指  $U1 \sim U5$  について同時に作成することができる。

また、本実施形態において、見かけ寸法測定部 512 は、爪領域画像取得部である撮影部 30 により取得された爪領域画像  $A1 \sim A5$  に基づいて爪部 T の幅方向 X の見かけ寸法  $Wa1 \sim Wa5$  を測定するものであるため、見かけ寸法  $Wa1 \sim Wa5$  を測定するために別途部材を設ける必要がなく、簡易に見かけ寸法  $Wa1 \sim Wa5$  を測定することができる。

10

また、本実施形態において、爪幅付加画像生成部 514 は、爪部 T の爪実寸幅  $Wb1 \sim Wb5$  に爪部 T の長さ方向 Y の寸法（爪長さ H）をも加味して爪幅付加画像  $B1 \sim B5$  を生成する。このため、ユーザの爪部 T の爪長さ H に合致した長さ寸法の爪幅付加画像  $B1 \sim B5$  を生成しこれを爪領域画像  $A1 \sim A5$  と合成することができる。これにより、より一層ユーザの爪部 T の形状に合った合成爪領域画像  $G1 \sim G5$  を生成することができ、完成したネイルチップ 70a ~ 70e を爪部 T に隙間なく貼り付けることができる。

また、本実施形態では、印刷しようとするデザイン画像を指定するデザイン指定手段を備え、印刷制御部 516 は、デザイン指定手段により指定されたデザイン画像と合成爪領域画像生成部 515 によって生成された合成爪領域画像  $G1 \sim G5$  の輪郭を示す線とをネイルチップシート 7 上に印刷させることができる。このため、デザイン画像入りのネイルチップ 70a ~ 70e を簡易に作成することができる。

20

#### 【0070】

なお、以上本発明の実施形態について説明したが、本発明は、かかる実施形態に限定されず、その要旨を逸脱しない範囲で、種々変形が可能であることは言うまでもない。

例えば、上記実施形態では、ネイルプリント装置 1 がデザイン指定手段を備え、デザインが指定されたときは指定されたデザインと合成爪領域画像  $G1 \sim G5$  の輪郭とを印刷する場合を例示しているが、デザイン指定手段を備えることは本発明の必須の構成ではない。デザイン指定手段を備えず、合成爪領域画像  $G1 \sim G5$  の輪郭を示す線のみをネイルチップシート 7 に印刷する輪郭線印刷専用のネイルプリント装置であってもよい。

30

例えば、模様付きのネイルチップシート 7 に印刷する場合には、ユーザが所望の模様が付されたネイルチップシート 7 を選択して、爪部 T の輪郭を示す線のみを印刷する。そして、ユーザが印刷された輪郭線  $R1 \sim R5$  に沿って切り取ることにより、模様付きのネイルチップ 70 を簡易に作成することができる。

なお、ネイルチップシート 7 として各種の材質のもの（例えば光沢感のある素材、ラメ入りの素材、スエード調の素材等）を用いたり、予めラインストーン等が貼り付けられたものを用意することにより、よりバリエーションのあるネイルチップを簡易に作成することができる。

このように爪部 T の輪郭を示す線のみを印刷する場合には、ユーザが表示部 26 上でデザインを選択する手間を省くことができる。また、輪郭を示す線のみを印刷すればよいため、印刷に使用するインクも一色でよく、その使用量も少量ですむ。さらにネイルチップシート 7 自体に模様等を設けておけば、擦れたりした場合にインクによる印刷よりも絵柄が剥がれにくい。

40

#### 【0071】

また、本実施形態では、ネイルチップシート 7 として接着剤層 72 を備えているものを例示したが、ネイルプリント装置 1 で使用可能なネイルチップシート 7 はこれに限定されず、接着剤層 72 を備えていないものであってもよい。

#### 【0072】

また、本実施形態では、ネイルチップシート 7 に印刷した後、ユーザが自ら個々のネ

50

ルチップ70a~70eを切り離す場合を例として示したが、例えば図30に示すように、印刷ヘッド46の近傍等にカッター5等の切断手段を設けて、印刷ヘッド46による印刷動作終了後、このカッター5によりネイルチップシート7上に印刷されている合成爪領域画像G1~G5の輪郭線R1~R5に沿って各ネイルチップ70を自動的に切り離すように構成してもよい。この場合、制御部51がカッター5等の切断手段を制御する切断制御手段として機能する。なお、切断手段を設ける位置は図示例に限定されない。

また、カッター5によりネイルチップシート7の全ての層を切り離すのではなく、剥離層73のみを残して切断するようにしてもよい。この場合には、切断後、ユーザはカッター5により切断された層(被印刷層71、接着剤層72)を剥離層73から剥がし取ることで、接着剤層72が露出した状態でネイルチップ70をネイルチップシート7から取り外すことができる。

このように、ネイルチップ70を自動的に切り離すように構成した場合には、ユーザの手を煩わせることなく、より簡易迅速にネイルチップ70を作成することができる。

#### 【0073】

また、本実施形態では、4本指用の指保持部材6a、親指用の指保持部材6bの両方にシート配置部65を設ける構成としたが、シート配置部65は4本指用の指保持部材6a、親指用の指保持部材6bのいずれか一方に設けるものとしてもよい。

また、例えば、4本指用の指保持部材6aと親指用の指保持部材6bとでシート配置部65の深さを変えることにより、薄いネイルチップシート7を用いる場合、シートの上にラインストーン等が配置されて厚みのあるネイルチップシート7を用いる場合等、各種の厚みのネイルチップシート7に対応できるようにしてもよい。

#### 【0074】

また、本実施形態では、撮影部30により取得された平面的な爪領域画像A1~A5に基づいて爪部Tの幅方向Xの見かけ寸法Wa1~Wa5を測定し、この見かけ寸法Wa1~Wa5に基づいて爪実寸幅Wb1~Wb5を取得して、爪幅付加画像B1~B5を生成し爪領域画像A1~A5に合成することで、実際の爪幅に合ったネイルチップ70を作成する場合を例示したが、実際の爪幅に合ったネイルチップ70を作成する手法はこれに限定されない。

例えば、ネイルプリント装置に、爪部Tの表面全体の画像である表面領域画像を取得する表面領域画像取得手段を備え、この表面領域画像取得手段により取得された爪部の表面領域画像の輪郭をネイルチップシート上に印刷させるように、印刷制御部が印刷部を制御することによって実際の爪幅に合ったネイルチップ70を作成する構成としてもよい。

#### 【0075】

具体的には、例えば図31に示すように、表面領域画像取得手段300として、爪部Tの幅方向Xに延在するシャフト301に沿って幅方向Xに沿って移動可能な支持部材302に2つの撮影手段303(カメラ)を配置する。このうち、第1の撮影手段303a(カメラ)は、爪部Tを真上方向から平面的に撮影するものであり、1回の撮影において、対象指Uの幅方向Xにおける撮影可能な範囲が、第1の指挿入部20a内に挿入され得る各種の対象指U(すなわち、親指U1~小指U5)を真上方向から見た平面視における爪部Tの幅方向の見かけ寸法Wa(図5(A)、図5(B)参照)よりも大きいものとする。また、第2の撮影手段303b(カメラ)は、爪部Tを斜め方向から撮影するものとする。

このように2つの撮影手段303(第1の撮影手段303a及び第2の撮影手段303b)を表面領域画像取得手段300に備えることにより、爪部Tの表面領域を立体的に捉えた画像を取得することができ、表面領域画像取得手段300により取得された画像のみから湾曲した爪部Tの形状に合致した形状のネイルチップ70を作成することができる。

なお、表面領域画像取得手段300は、爪部Tの立体的な表面形状を把握することのできるものであればよく、ここに例示した構成に限定されない。

#### 【0076】

ネイルプリント装置をこのような構成とした場合には、爪幅付加画像B1~B5の生成

10

20

30

40

50

及び爪領域画像 A 1 ~ A 5 との合成等の処理を行う必要がないため、印刷にかかる処理時間の短縮等を図ることができる。

【 0 0 7 7 】

また、本実施形態では、爪幅付加画像生成部 5 1 4 が、爪実寸幅取得部 5 1 3 により取得された爪実寸幅 W b に基づいて爪幅付加画像 B を生成する場合を例として説明したが、爪幅付加画像生成部 5 1 4 が爪幅付加画像 B を生成する手法はこれに限定されない。例えば、爪幅付加画像生成部 5 1 4 が、見かけ寸法測定部 5 1 2 によって測定された爪部 T の見かけ寸法 W a に一定の値を加算した上で、見かけ寸法 W a に対応する爪幅付加画像 B を生成してもよい。

このような構成とした場合には、爪実寸幅取得部 5 1 3 による爪実寸幅を取得する処理が不要となり、印刷にかかる処理時間の短縮等を図ることができる。

10

【 0 0 7 8 】

また、本実施形態では、人差し指 U 2 から小指 U 5 までを一度に印刷指挿入部 2 0 a に挿入して撮影を行い、爪画像変形処理との各種処理を各指別に行うことができる場合を例示しているが、ネイルプリント装置は、複数の指について同時に処理できるものに限定されず、各指について 1 本ずつ処理を行うものであってもよい。

【 符号の説明 】

【 0 0 7 9 】

- 1      ネイルプリント装置
- 2      ケース本体
- 4      蓋体
- 5      カッター
- 6      指保持部材
- 6 a    4 本指用の指保持部材
- 6 b    親指用の指保持部材
- 7      ネイルチップシート
- 1 0    プリント装置本体
- 2 0 a    印刷指挿入部
- 2 0 b    非印刷指挿入部
- 2 0 c    掴み部 ( 隔壁 )
- 2 0    印刷指固定部
- 3 0    撮影部
- 3 2    カメラ
- 3 3    照明灯 ( L E D )
- 4 0    印刷部
- 5 0    制御装置
- 5 1    制御部
- 5 2    R O M
- 5 3    R A M
- 6 0    保持部材本体
- 6 1    指挿入孔
- 6 2    指仕切部
- 6 3    爪部露出孔
- 6 5    シート配置部
- 7 0    ネイルチップ
- 5 1 1    デザイン設定部
- 5 1 1    デザインデータ保持部
- 5 1 2    見かけ寸法測定部
- 5 1 3    爪実寸幅取得部
- 5 1 4    爪幅付加画像生成部

20

30

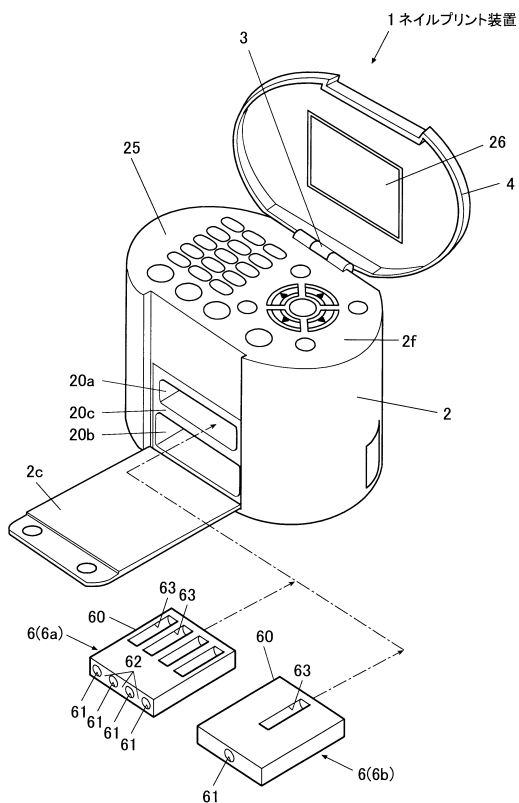
40

50

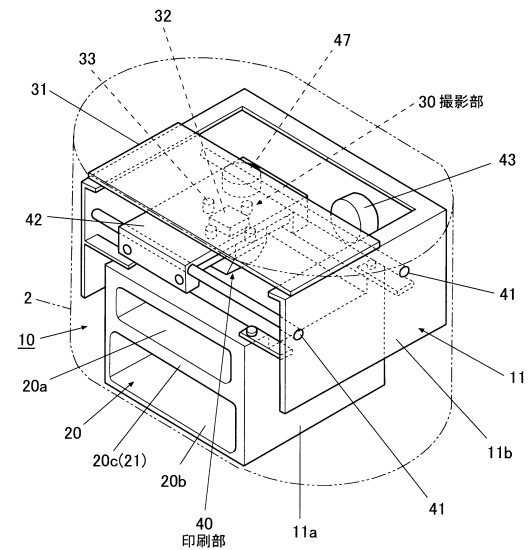
5 1 5 合成爪領域画像生成部  
 5 1 6 印刷制御部  
 5 1 7 表示制御部  
 A 1 ~ A 5 爪領域画像  
 B 1 ~ B 5 爪幅付加画像  
 G 1 ~ G 5 合成爪領域画像  
 R 1 ~ R 5 輪郭線  
 T ( T 1 ~ T 5 ) 爪部  
 U ( U 1 ~ U 5 ) 対象指  
 N 非対象指

10

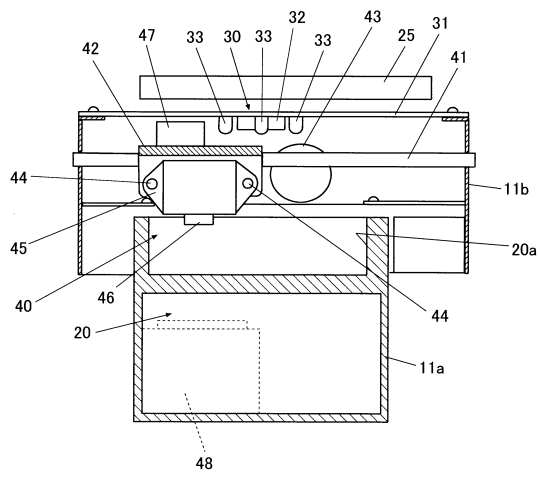
【図 1】



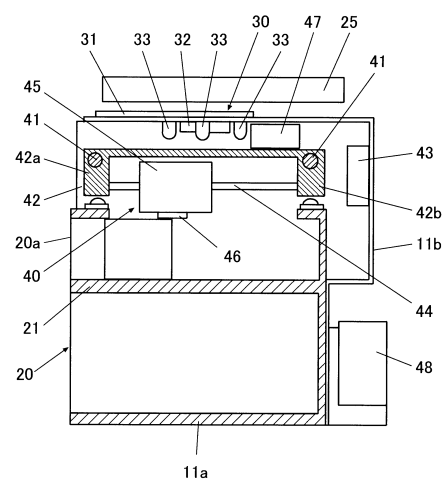
【図 2】



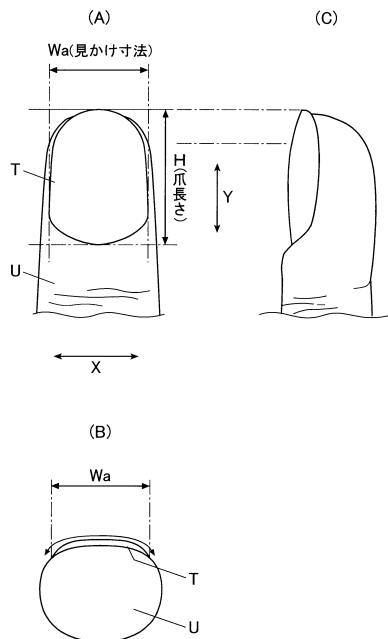
【図 3】



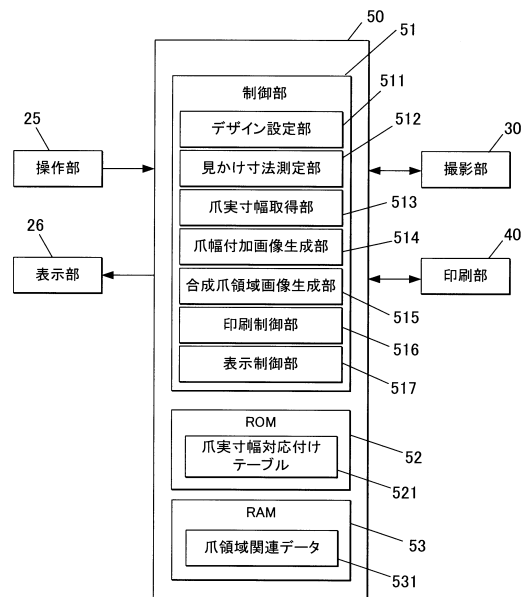
【図 4】



【図 5】



【図 6】



【図 7】

521

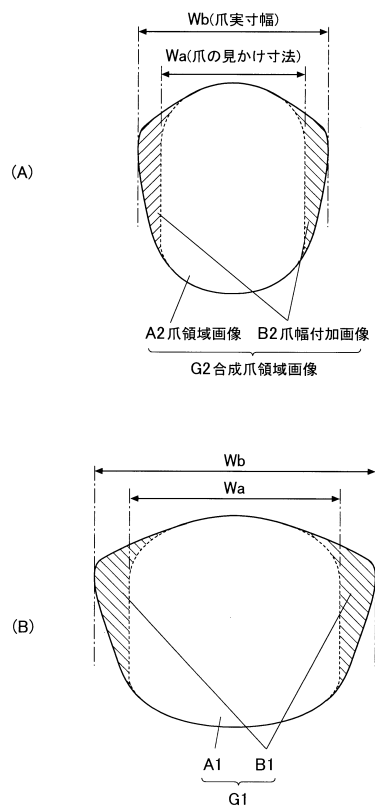
親指用			
小指用			
薬指用			
中指用			
爪実寸幅対応付けテーブル			
人差し指用			
	爪幅 見かけ寸法	爪実寸幅	爪長さ
0番	14mm	20mm	23mm
1番	13mm	19mm	22mm
2番	12mm	18mm	22mm
3番	11mm	17mm	22mm
4番	10mm	16mm	21mm
5番	9mm	15mm	20mm
6番	9mm	14mm	19mm
7番	8mm	13mm	18mm
8番	7mm	11mm	18mm
9番	7mm	10mm	16mm

【図 8】

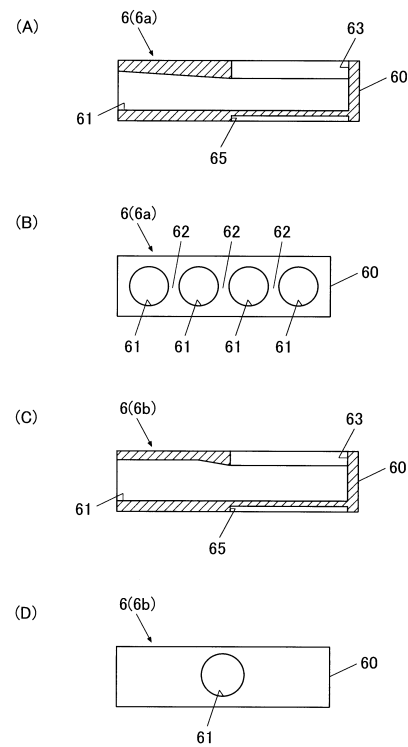
531

爪領域関連データ									
親指 (U1)	爪領域画像	A1	爪幅 見かけ寸法	Wa1	爪実寸幅	Wb1	爪幅付加画像	B1	爪長さ
		A2		Wa2		Wb2		B2	H1
人差し指 (U2)		A3		Wa3		Wb3		B3	H2
中指 (U3)		A4		Wa4		Wb4		B4	H3
薬指 (U4)		A5		Wa5		Wb5		B5	H4
小指 (U5)									H5
合成爪領域画像									G1 (A1+B1)
									G2 (A2+B2)
									G3 (A3+B3)
									G4 (A4+B4)
									G5 (A5+B5)

【図 9】

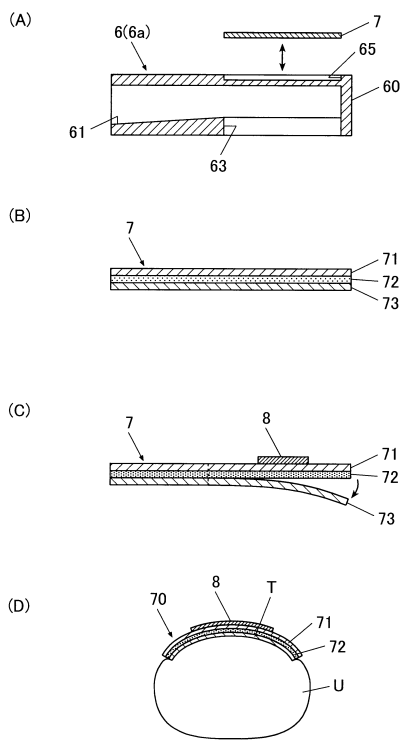


【図 10】

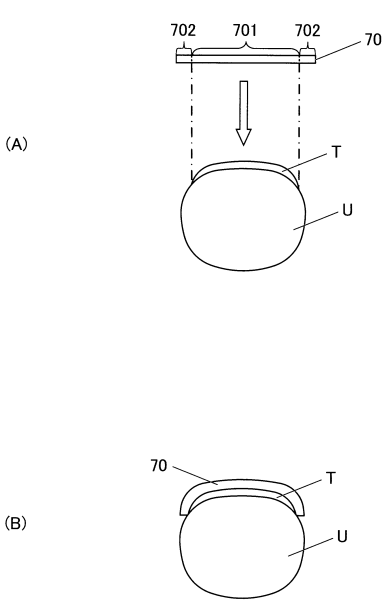




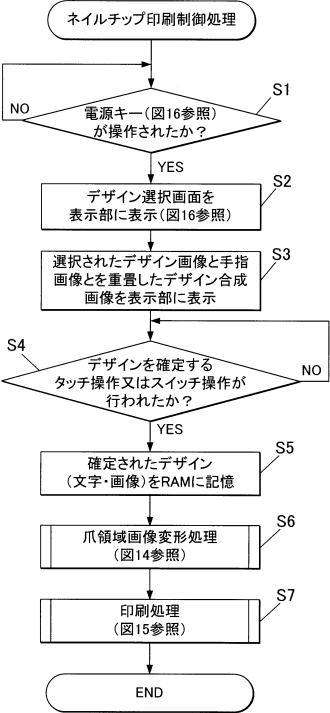
【図 1 1】



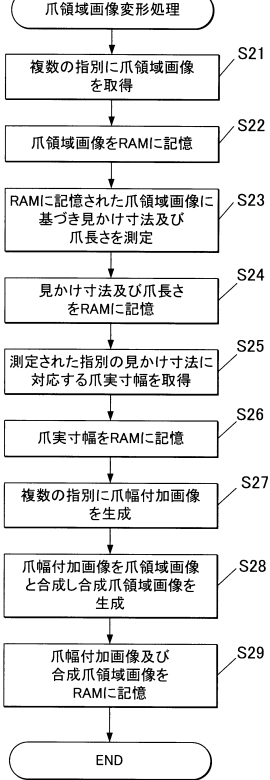
【図 1 2】



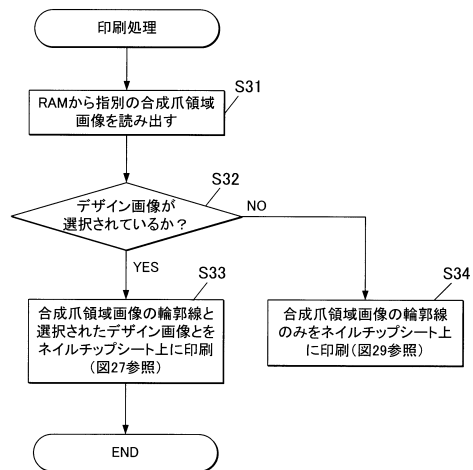
【図 1 3】



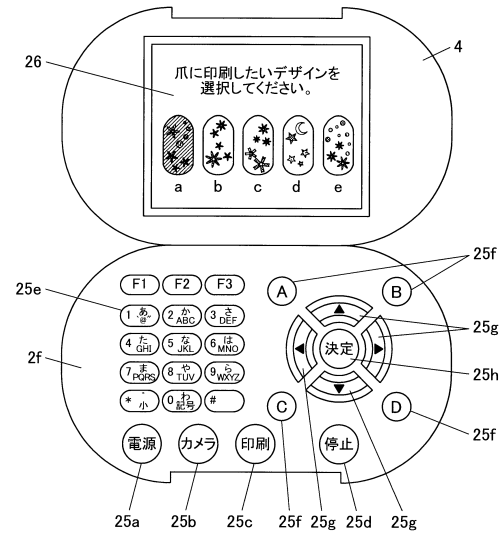
【図 1 4】



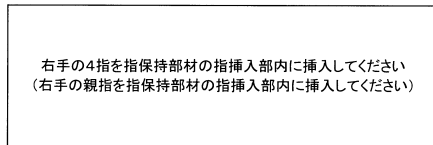
【図 15】



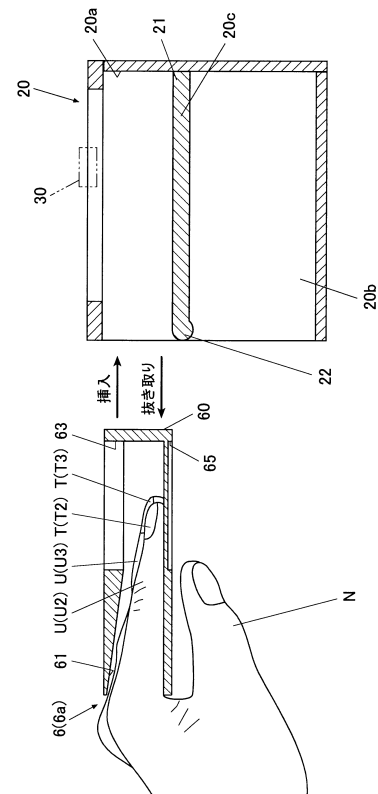
【図 16】



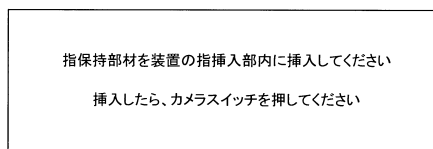
【図 17】



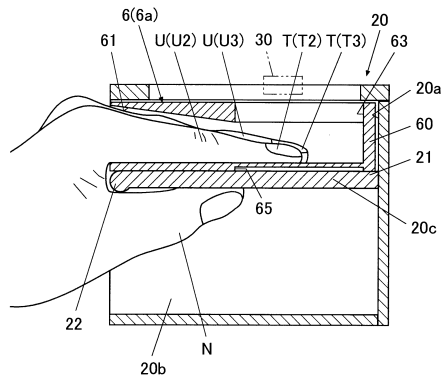
【図 19】



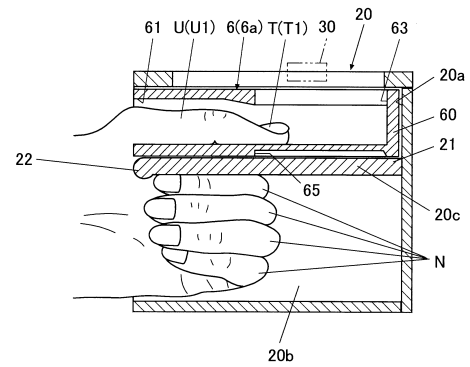
【図 18】



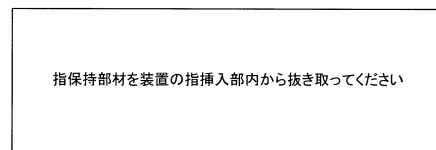
【図 20】



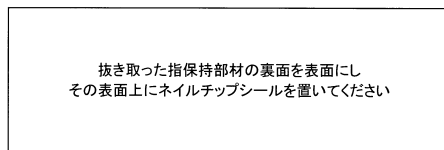
【図 21】



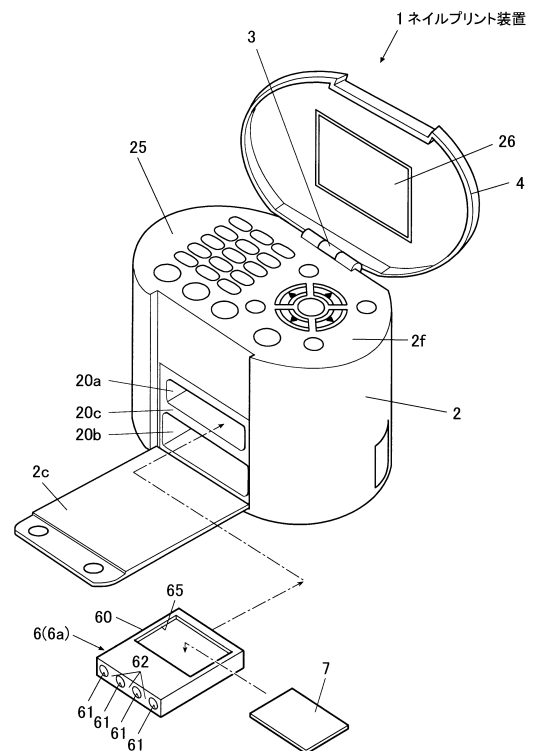
【図 22】



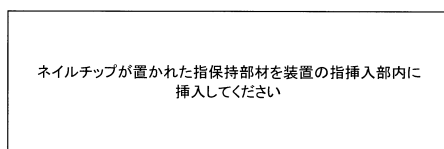
【図 23】



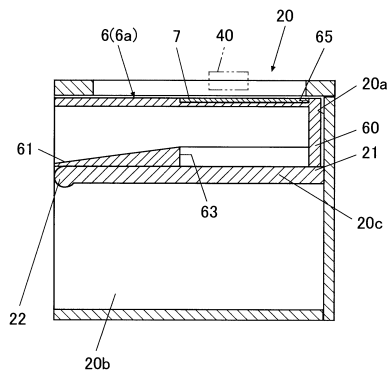
【図 25】



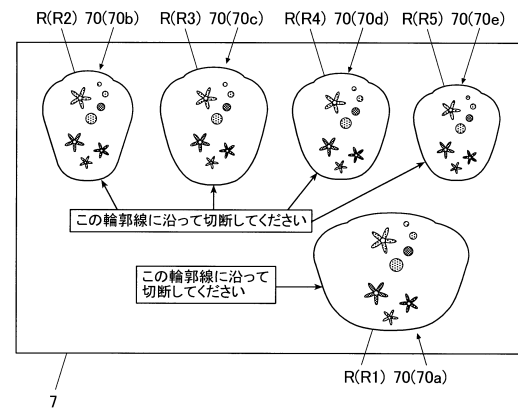
【図 24】



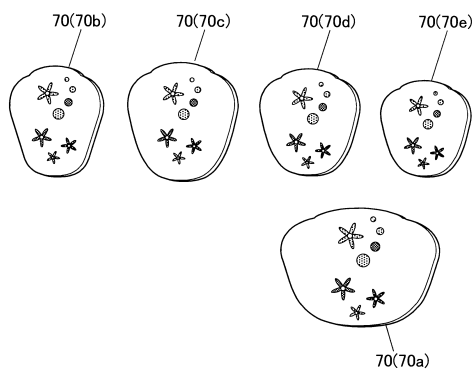
【図 26】



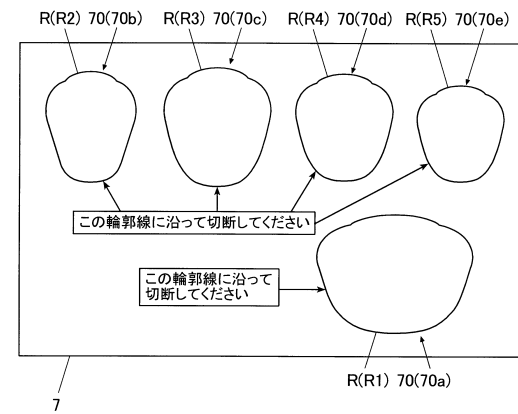
【図 27】



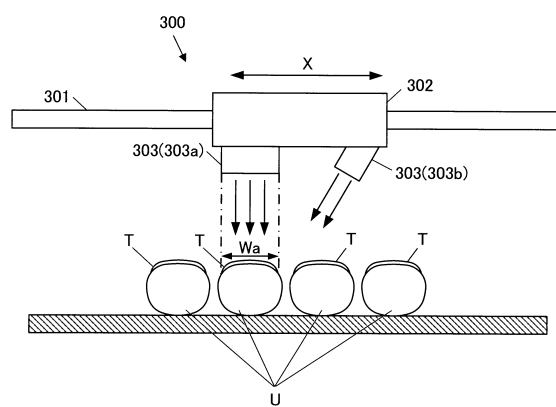
【図 28】



【図 29】



【 図 3 1 】



---

フロントページの続き

(56)参考文献 特表2003-534083(JP,A)  
国際公開第99/33372(WO,A1)  
特表2006-519030(JP,A)  
特開2000-301778(JP,A)  
米国特許第6065969(US,A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)  
A45D 31/00  
B41J 21/00  
B41J 25/20